

ザイール放送センター建設計画 調査報告書

昭和48年3月

海外技術協力事業団

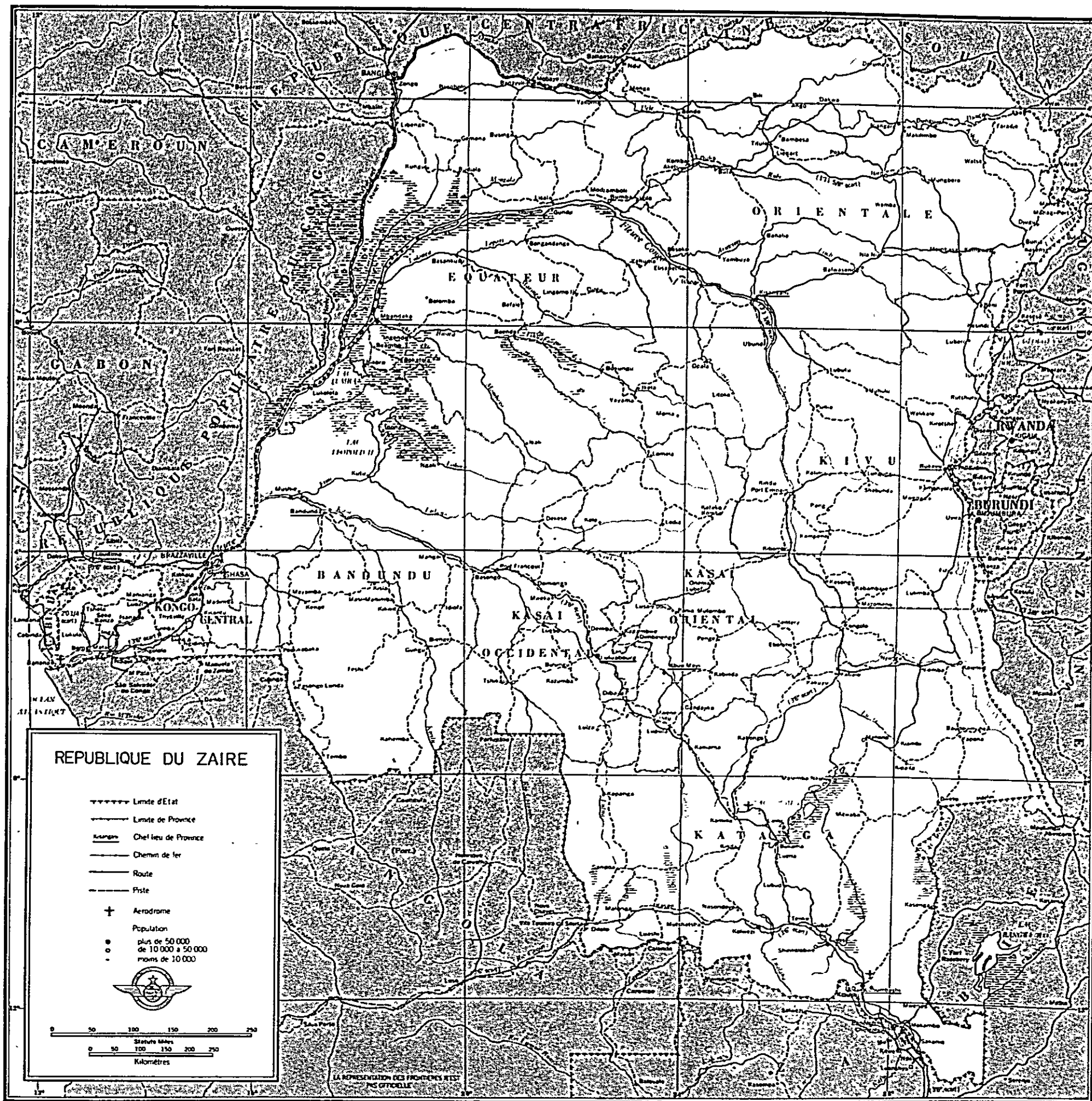
JICA LIBRARY



1018335[8]

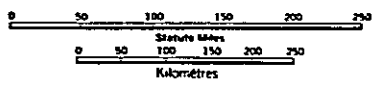


國際協力事業団	
受入 月日 84. 3. 22	532
	79
登録No. 01358	EE



REPUBLIQUE DU ZAIRE

- Limite d'Etat
- Limite de Province
- Chef lieu de Province
- Chemin de fer
- Route
- Piste
- + Aerodrome
- Population
- plus de 50 000
- de 10 000 à 50 000
- moins de 10 000



LA REPRÉSENTATION DES FRONTIÈRES N'EST PAS OFFICIELLE

ザイール放送センター建設計画調査報告書

目 次

1. まえがき	1
2. 調査の目的と範囲	2
3. 調査経過	3
4. 放送センター建設計画	7
5. フィージビリティ調査の必要性と調査項目	10
6. 結 論	11

別 添 ザイール放送の現状

付 録

- (1) 情報省敷地平面図
- (2) ザイール政府組織および情報省新組織
- (3) 1969年情報省計画案
- (4) 放送番組表
- (5) 人口分布表
- (6) 新聞論調
- (7) 写 真

10/15

1. ま え が き

ザイール国放送センター建設計画は、昭和46年ザイール国(当時コンゴ民主共和国)大統領 Mobutu Sese-Seko が我が国を訪問した際にザイール政府の重要政策の一つとして掲げ、日本からの協力を要請したものである。

ザイール国と我が国の経済関係は、SODIMIZA によるMUSOSHI 鉱山の開発をはじめとして、各方面の協力により最近とみに緊密さを加えつつある。

特に、同国内で推進されているモラル向上の国民運動では、自力での建国を行なうために、敗戦の疲弊から短期間に立直り今日の繁栄を得た日本に学べというキャンペーンを行なっている。放送センター建設計画についても、ザイール政府は特に日本からの協力を熱望しているものである。

放送網の全国的拡充は、ザイール政府の基本的政策の一つである。全国的に放送番組中継用マイクロ回線の建設計画が進められるのと相俟って、テレビジョン放送局の置局計画が実施準備中である。また、ラジオ放送局の設備更新も着々と進行中である。これら放送局の中央統轄機能とし、また、放送番組の制作部門として放送センターを建設しようとするものである。この放送センターの完成による放送機能の充実によつて、広大なザイール国内の統一国家としての国民意識を昂揚すると共に、国民の勤労意欲の増進と道徳性を向上せしめ独立自主の“真実のザイール”を建設しようとしているのである。

我が国は、本プロジェクトを実施するに先立ち、ザイール政府の本計画に関する意向を具体的かつ詳細に調査すると共に関連する放送の現状を把握するため、予備調査団4名が派遣されることとなり、昭和47年10月25日に出発したものである。

この調査団の構成員は次のとおりである。

団 長	深 谷 博 之	郵政省電波監理局調査官
団 員	隠 岐 恒 夫	日本放送協会技術本部 送信設備部主管
団 員	由 宇 英 任	日本放送協会技術本部 演奏設備部
団 員	長谷川 徹	海外技術協力事業団 開発調査部実施二課 技術参事

2. 調査の目的および範囲

本調査団の調査目的は、ザイール政府の要請に基づき、同国の放送センター建設計画に関する事前調査を行なう事である。

ザイール国政府では、政治・行政の広報、教育文化の普及および音楽放送等の普及の手段として放送事業を拡充することが急務とされている。そこで本事業の一環として、放送センターを建設しようとするものである。

現地においては、次の事項の調査を実施した。

ア. 放送事業の現状と拡充計画

イ. 電気通信とくに放送に関する技術水準

ウ. 放送センター建設計画の構想

エ. 放送センター建設が放送事業、ひいては同国の文化経済の発展に及ぼす影響

オ. フィージビリティ調査の必要性およびその調査項目についての検討

以上の現地調査の結果、収集した資料を解析し、放送センター建設計画の概要を、帰国後取りまとめたものである。

3. 調査経過

3-1 調査日程

ザール放送センター建設計画調査団は、昭和47年10月27日にザールに入団し、本計画に関するザール政府の意向を約2週間に亘って調査した。調査は主として情報省 (Ministère de L'information) との打合によつたが出席者は次の4名である。

総局長 (Directeur Général)	Dongo
技術顧問	Kandolo
(Conseiller au Cabinet du Commissaire d'Etat)	
テレビ技術部長	Mangenda
(Chef des Services Techniques de la T.V.)	
ラジオ技術部長	Mabumba
(Chef des Services Techniques de la Radio)	

更に政府の情報大臣、大統領府長官に会見したが詳細は後述する。

調査日程の詳細は次のとおりである。

10月27日 (金)	午前	情報省総局長 Dongo との会見 情報大臣 Sakombi との会見
	午後	日本大使館との打合せ
10月28日 (土)	午前	情報省と調査日程打合せ
	午後	調査団内の打合せ
10月30日 (月)	午前	無線施設視察 N° Djili , Mutendi, Binza, Kabinda
	午後	資料整理打合せ
10月31日 (火)	午前	第一回情報省打合せ 情報省構内視察
	午後	スタジオ運用状況視察
11月 1日 (水)	午前	N° Sélé 地球局視察 M.P.R 本部視察
	午後	写真現像施設視察 日本大使館打合せ
11月 2日 (木)	午前	第二回情報省打合せ
	午後	Télé-Star 視察
11月 3日 (金)	午前	大統領府長官 Bisengimana との会見 情報省総局長 Dongo と打合せ
	午後	第三回情報省打合せ

- 11月 4日 (土) 午前 郵電公社(O.N.C.P.Z.)訪問
午後 中間報告作成
- 11月 6日 (月) 午前 情報大臣 Sakombi との会見
情報省第四回打合せ
- 11月 7日 (火) 午後 日本大使館打合せ

3-2 調査概況

ザイール国放送センター建設計画調査団は、10月27日午前5時Kinshasa市N'Djili空港に到着したが、情報省官房長Kibungu Kidiaをはじめ日本大使館の方々等関係者の御出迎を受け直ちに行動に入った。午前10時情報総局長(Directeur Général) Dongo Badjanga Eseko-Obalaと会見し調査団の任務が放送センターに関する予備調査であり、その計画についての技術的資料の蒐集が目的であることを説明した。次いで、午前11時に山川臨時代理大使と同行、情報大臣(Commissaire d'Etat à L'Information) M. Sakombi Inongo を表敬訪問した。先づ調査団の任務について説明し、本任務達成のための協力を要請した。これに対して、M. Sakombiから次のとおり挨拶があつた。

遠路の来訪を感謝する。Mobutu大統領が訪日の際、天皇陛下に御会いし、また、佐藤首相をはじめ日本国民の歓迎を受けた事に関し、ザイール政府のスポークスマンとして厚く御礼申し上げる。Mobutu大統領は、訪日の際、日本の産業経済技術の各分野における発展ぶりと、日本人の勤労意欲に感銘を受けた。大統領は、日本とザイール両国の友好のため、放送センター建設について日本の協力と優れた技術により建設するようパートナーとして日本を選んだ。私は、大統領の委嘱により日本と協力してアフリカ中央部に位置する広大なザイールにふさわしいラジオ・テレビ・映画・写真・印刷等現在の情報省の機能を包含した超近代的な建物と、設備機器を備えた放送センター(Cité de L'information)を、現在の情報省の敷地に最も早い時期に速かに建設したい。

以上のようにM. Sakombi が極めて熱心に早期完成を要望されたので、調査団側から本計画のように大規模な建築は基礎調査や設計等に相当の時日を要するものである点を指摘した。また、同大臣は、大統領府長官および大蔵大臣も放送センターに極めて関心をもっているので、滞在中会見の機会があろうとの発言があつたので、調査団側から重ねて本調査団の任務は予備調査を目的とする技術的なもので、財政上の問題については関与できない旨を強調した。

なお、この会見の際の大臣の卓上には日本商社作成の放送センター透視図を掲げてあり、別の机の上にフランスおよび西独のものらしき模型が置かれていた。

翌10月28日は情報省において総局長 M. Dongoと打合せを行ない調査団の滞在中の行動予定を決定した。情報省側作成の調査日程は適切なものであつたが、調査団から番組制作会社 Télé-Starおよびザイール郵電公社の追加を希望した。調査に対する協力態勢は極

めて積極的であると感じられた。

第一回打合会は10月31日に行なわれ情報省の現在の敷地平面図が提示された。(付録1, 参照)本図について現状の説明があり将来計画との関係を検討した。引続き構内の実地検分を行なった。

第二回打合会は11月2日に行なわれ、予め要望してあつた情報省の組織および放送番組表について、資料が交付され説明があつた。(組織については付録2, 番組表については付録4, 参照) 次いで調査団より質問書を提出し、(1)放送センター計画、(2)放送局置局計画、(3)スタジオ機器整備計画、(4)放送番組拡充計画、(5)研修計画について質疑応答を行なった。

この間において、情報省計画案(1969年3月31日)の写が交付され、これに準拠することが要望された。(付録3, 参照)またフランスのThomson-CSFのプロポザル(模型)が供覧されたが、中央24階建の具体性のある試案であつた。

第三回打合会は11月3日に行なわれ、技術的諸問題について技術系幹部と討議を行なった。この会合においてテレビジョンのカラー化早期実施が明らかになつた。

第四回打合会は11月6日に行なわれ、本プロジェクトの促進に関する要請を中心として技術研修生の多数受入れ要請; 移動取材中継用機器に関する要望がなされた。

以上の打合会のほか、Kinshasa 周辺のN'Djili, Mutendi, Binza, Kabinda の各放送所, N'Sélé 地球局, 番組制作会社 Télé - Star 等の視察, 情報省内放送施設の詳細調査が行なわれた。これ等の調査結果は、別添に述べる。

11月3日午前11時、情報省総局長 M. Dongo, 日本大使館山川臨時代理大使と同行の上、調査団は大統領府長官 M. Bisengimana を訪問した。

先づ調査団より調査団の来訪の目的を述べると共に、有能な情報省担当者の協力により、予備調査に必要なラジオテレビ関係の実施調査と打合せが極めて効果的に行なわれている旨述べた。これに対して、Bisengimana 長官は極めて厳肅な面持になつて、次のとおり述べた。

モブツ大統領訪日の際、日本の技術と日本人の能力および勤勉さに感銘した結果、情報省の機能を一同に集めた放送センターの建設をアメリカ、フランス、ベルギーではなく、日本と協力して建設することに大統領が決定した。すでに見られたとおり、現在の放送関係の建物、設備機器は老朽化しており、その補修および代替の機器購入に無駄な経費が多いのでザール政府は長くは待てない。1日も早くセンターの建設に着工してもらいたい。技術的調査の完了は何時になるのか。

同長官の質問に対して調査団から、本予備調査は遅くとも来年2月に結果が出るが、別途フィジビリティについての調査が行なわれるかも知れない旨答えた。これに対して、同長官からフィジビリティの調査団の来訪日程について質問があり、調査団長から権限外の事ではあるが個人的見解としては来年度4月以降となるであろうと回答した。

以上の問答の後、同長官は次のとおり述べた。

ザール政府は、放送センターの建設については、日本に全て委せたのである。調査団はそれを承知しているのか。ザール政府は日本政府の作成した仕様書で、日本政府の選んだ業者によつて建設してもらいたい。金融についても早くきめて欲しい。ザール政府は長く待てない。何時着工して何時完成するのか。大使館を通じて回答がもらいたい。

同長官の発言に対して、調査団長より御要望の趣旨については、帰国の上、日本政府によく報告すると述べた。同長官はメモに個条書をして同行した情報省総局長Dongo に渡し、会見は打切られた。

同長官との会見の後、情報省総局長室において打合せを行なつた。回答を求められた事項は次のとおりである。

- (1) 技術調査完了時期
- (2) フィージビリティ調査の時期
- (3) 仕様書完成時期
- (4) 入札予定日
- (5) 着工予定日
- (6) 大体の建設構想と期間
- (7) 総工事費
- (8) 融資の利子および償還期間

以上の事項と併せて、M.Dongoより、放送センターは所謂MaisonではなくCitéを希望していること。(東京のNHKの放送センターはCitéであるとも云う。)ザールの体大さを象徴する造形であること。ザール政府の選択のために模型図4種類を提出してもらいたいこと等の要求があつた。以上の結果、ザール政府が日本以外の国々からの申出に拘らず、日本に一切を委任したと理解しており、しかも、その状態に入つて一年以上の期間が経過している事が判つた。

次いで、11月6日午前11時、情報大臣Sakombiに最終的会見を行なつた。調査団から、情報省の協力により、所期の目的を概ね達成したことを感謝し、帰国後このプロジェクトの推進に協力したいと挨拶した。これに対しSakombi情報大臣は、大要次のとおり述べた。

我々の考え方は、十分に判つたものと思う。最初の面会の時の言葉を繰り返すのは止める。放送センターの計画に関し、根本的な問題について述べる。(大統領府長官と同じ。略)この計画は、ザール政府の至上命令であるから建設の促進に協力してもらいたい。

その後の送別招宴の席で総局長Dongoは、本調査団の模様が大統領にも報告されており関心が強かつたこと、情報省にとつて極めて重大な問題であることを語り、本問題の処理に苦慮している様子がかがえた。

4. 放送センター建設計画

11月2, 3, 6日の打合せで、ザール政府の放送センターの建設計画の内容が明らかになった。これは、情報省の全機構を含むもので、放送センターというよりむしろ情報センターの計画である。その要件は、

- ① 1973年1月から発足する情報省の新機構(付録2 参照)に適合したものであること。
- ② 大臣並びに官房長室ほか全行政部門を含む。
- ③ スタジオ、オーディトリウム、シネマ、フォト、研修所、診療所、車庫を含む。送信は含まない。これは別途計画で整備される。
- ④ 計画の基本は、1969年3月フランス案(CITE DE L'INFORMATION DE KINSHASA, PROGRAMME PROVISIOIRE)による。(付録3)ただし、第4局-テレビジョン(4ème Direction - Télévision)の項で、テレビスタジオの数を表-1のように修正する。
- ⑤ 建物敷地割付けの形式は、独立した建物が数個所に散在する方式、すなわちシテ(Cité)と称されるものである。メゾン(Maison)形式ではない。
- ⑥ 建設工程は必要により数期に分ける。建物の拡張については、積上げではなくて、敷地内で別棟を増築することを考慮する。
- ⑦ 敷地は、付録1のとおり現在の情報省の敷地を利用する。面積は約40000㎡。研修所敷地は、道路(AV. COL. VAN GEL)を隔てたところにある。面積約2300㎡。

表-1 放送センター建設計画
テレビスタジオ修正案

名 称	1969年案	今回案
公開スタジオ (Studio théâtre) 1,000㎡	1	1
中形スタジオ (Studio moyen) 200㎡	1	2 望ましい (désirable)
大形スタジオ (Grand studio avec fosse) 400㎡	1	1
小形スタジオ (Petit Studio) 50㎡	1	2
副調整室 (Régie technique)	3	5

- ⑧ 建設中の放送は、Télé - Starを使用して継続する。現在の敷地内の建物をとりこわす場合には事務棟から先に行く。
- ⑨ 放送設備については、最初からカラー設備を考慮する。PAL方式を採用する。カラーカメラは、3プランビコンカメラとする。なお、1973年中にカラー放送を開始する。
- ⑩ 現用設備のうち方式変換装置を転用する。他は別途考慮する。
- ⑪ 建物には放送設備のほか必要な一切の設備を含む。
- ⑫ 情報センター建設計画に関連して、別途、TV中継車2台、VHFラジオカー4台、広報車（前輪駆動、フィルム映写機搭載）6台の配備計画がある。

情報センター建設計画の原点は、ザール政府の国策としての情報活動の重視にあり、それは、第1に、全国放送網拡充計画の進展と並行して放送番組の拡充に対処するためにスタジオを増設する必要があるからであるが、第2に既に整備の完了した他の各省と較べて機能・外観ともに老朽化した情報省の建物を総合整備するという意味も考えられる。

テレビジョン放送番組の拡充について、11月2日の打合せて、「昼12時のニュース編成を含めて放送開始を早くする。」計画が示された。

現在の放送時間は、付録4のように週間（定時）全放送時間は53.5時間である。いま、月曜から金曜までの毎日の放送時間が、土曜日と同じく12時30分から23時30分までの11時間に拡充されたとすると、週間全放送時間は82時間となる。現時点のスタジオ番組編成比率—全放送時間に対するスタジオ制作番組放送（収録を含む）時間の割合—65%がほぼ維持されたとすると、週間スタジオ番組放送時間は、 $82 \times 0.65 \approx 53$ （時間）となる。一方、現在、情報省本部1室、Télé - Star 2室計3室のテレビスタジオの1室当りの番組放送時間は、 $53.5 \times 0.65 \times \frac{1}{3} \approx 11.6$ （時間/週）、または、1.65（時間/日）となる。これは、Télé - Zaire の制作能力ともいべきもので、1日当りのスタジオ使用時間を番組制作スタッフの作業時間との関連で10～15（時間/日）とすると、スタジオ使用倍率—スタジオ使用時間と放送時間との比—は、 $10 / 1.65 \sim 15 / 1.65 \approx 6 \sim 9$ となる。ここで、現在のベースで番組制作が続けられるとすると、テレビスタジオの数は、週間スタジオ番組放送時間/スタジオ1室当り週間制作能力時間 = $53 / 11.6 \approx 4.6$ （室）となる。

ニューススタジオを1室専用とした場合、ニュース1日3回1.5時間として、週間10.5時間となり、残り $53 - 10.5 = 42.5$ （時間）を他のスタジオで消化するとすると、同様にして他のスタジオの数は $42.5 / 11.6 \approx 3.7$ （室）となる。したがってスタジオ数の合計は、 $1 + 3.7 = 4.7$ （室）となる。

以上のことから、テレビスタジオは5室という結果が得られた。これは巨視的な分析の結果であつて、番組制作の多様性—番組の種類・規模・質、制作手法、制作スタッフの能力・作業時間、設備の規模・機能—からくる不確定要素、将来への拡張性—番組制作数の拡大、大形ドラマなど特集番組の制作—などを考慮すると、スタジオのサイズの妥当性を含めて、来るべきフィージビリティ調査などの機会に検討を加える必要がある。あえて現段階で言及すれば、前述のように仮定した番組拡充の範囲を前提として、今計画案ではリハーサル室、本読室が含ま

れていないこと、カット撮り、編集など制作手法の高度化を考慮して、スタジオ使用倍率6～9を20%程度余裕をみると、7.2～10.8となり、したがってスタジオの数は6となる。この数は、表一1のように1969年3月フランス案修正案、「小形スタジオは2室、中形スタジオは2室が望ましい。」とした場合と一致する。

ラジオ放送番組の拡充計画は、今のところ考慮されていない。ラジオ放送のうち国内放送（Radio Kinshaba）の週間（定時）番組表を付録4に示す。24時間放送である。なお、国際放送は、1日6時間の放送である。ラジオスタジオの数については、修正案はなく、付録3のとおり17室が提案されている。現在のラジオスタジオ1室当りの番組放送時間を算出すると、全放送時間は1日 $24 + 6 = 30$ （時間）、スタジオ数は本部6室（稼動中）、Télé-Star 2室（汎用スタジオを除く）計8室であるから、スタジオ番組編成比率は100%として、 $30 / 8 = 3.75$ （時間/日）となる。スタジオ使用倍率は、スタジオ使用時間を平均12時間とすると、 $12 / 3.75 \approx 3.2$ となる。テレビスタジオの場合と同様に20%のマージンをとると、ラジオスタジオ数は、1室当りの番組放送時間が $12 / 3.2 \times 1.2 \approx 3.1$ （時間/日）であるので、 $30 / 3.1 \approx 9.7$ （室）となる。したがって巨視的な取扱いでは10室となるが、テレビジョンの場合のように番組拡充計画、とりわけ国際放送の放送時間の増大、国内放送の言語別放送が日程にのぼれば、全放送時間は増大し、必然的にスタジオの増加はさけられないであろう。しかし計画案17室との差7室の根本的理由については、テレビスタジオの場合と同様に、全国ネットワークレベルでの番組編成、番組の種類・規模・質、制作手法、スタジオのサイズなど、来るべきフィージビリティ調査などにおいて、追求することとすべきであろう。

Télé-Starは、情報センター建設中は放送継続のためにスタジオの中核として、建設後も教育番組専門の番組制作会社として運営される予定になっている。したがって建設工程を数期に分け段階的に整備することに関連して、Télé-Starは、少なくとも第1期には建設すべきスタジオの数を少なくすることに寄与するものと考えられる。すなわち、スタジオの数は、テレビスタジオ $6 - 2 = 4$ （室）、ラジオスタジオ $10 - 2 = 8$ （室）に減少する。

テレビジョン放送番組のカラー化については、受像機の普及状況（1971年現在受信者数12000）に関係なく送信をカラー化する意向が確認された。システムはPALである。これは転用が予定されている現用の方式変換装置とマッチングするものである。PAL方式カラーテレビジョン設備を建設当初から導入することについて、機器製造上、工事実施上の技術的な問題はないが、コストの問題は残る。しかし、建設工事実施の時期が数年先であること、白黒からカラー移行にともなう設備の更新・改修、運用停止などの煩雑さ、メーカーの製造体制（とくにわが国のメーカーの）などを考慮すると総合的にみて経済的と思われる。

TV中継車、VHFラジオカー、広報車の計画は、とくに情報センター完成までのつなぎとして、放送番組の充実に資するものと考えられる。

5. フィージビリティ調査の必要性と調査項目

今回の放送センター建設計画予備調査は、先づ現在の放送局の機能について電波技術および電子技術の面からの調査を行ない概ね終了した。その詳細については別添「ザール放送の現状」において述べてあるとおりである。さらに放送網拡充計画も既に樹立され一部実施中であることから、今後の課題は矢張り放送センターの建築そのものに絞られて来た。ザール政府の最も強調したのは、先づCitéと呼ばれる建築形式であること、次にザールを象徴する超近代的建築であることの二点であったから、基本設計特に所謂デザインに関心があるものと考えられる。

放送センターの設備機器についても最新のものを要求しており、かつ予想より早い時期にテレビジョン方式のカラー化する事が決定していることから電子技術の面でも問題が多い。更に全国的放送網と放送センターとの機能的結合、放送センター工事期間中の放送機能の維持継続方策、放送番組制作会社 Télé - Star との関係の明確化が必要となろう。

以上の結果を総合すると、放送センター建設計画に関するフィージビリティ調査に必要な調査項目は、次のとおりである。

(1) 建築基本設計に必要な資料収集

- 1) 基本的構造および配置の検討
- 2) 敷地の測量と地盤の調査
- 3) 気象観測資料および地震関係資料
- 4) ユティリティ事情（給排水、電気等）
- 5) 放送センターの長期的拡充構想

(2) 具体的計画作成に必要な資料の収集

- 1) 建築関係法規
- 2) 現地建築事情調査
- 3) 運輸事情調査

(3) スタジオおよび機械設備に関する調査

- 1) スタジオ設備
- 2) 換気冷房設備
- 3) 電気設備
- 4) 衛生設備

(4) 演奏設備（電子機器）に関する調査

カラー化対策を含む。

(5) 放送センターの統制的機能に関する調査

- 1) 全国放送網との機能的結合
- 2) 工事期間中の放送機能の維持継続方策
- 3) 放送番組制作会社 Télé - Star との業務分担

(6) 研修計画の策定と研修設備の設計

以上を総合すると、放送センター建設計画実現のためには、引続きフィージビリティ調査団の派遣が必要であると考えられ、要員5～6名、期間40日程度が適当である。

6. 結 論

ザールは、いわゆるブラックアフリカの中央に位置し豊富な資源を有する大国であるが、現在政治的にも経済的にも一つの重要な転機に立っていると見られる。大統領 Mobutu Sese-Seko は、強力な統一国家の実現と経済的発展のため、M.P.R (Movement Populaire de la Revolution : 革命国民運動) を展開し、“真実のザール”を建設しようと国民に呼びかけている。大統領は、政府第一の重要政策として、放送の普及を公約しており、その重要度は他の鉄道港湾橋梁の計画に優るとも劣らないのである。放送センター建設計画は M.P.R 推進の極めて有効な手段であると考えられ、国民のモラルの向上、社会教育、成人訓練のために活用されるものである。西欧に追随しない“真実のザール”を建設するためには、その豊富な資源に依存するだけでなく、国民の能力と勤労意欲の向上が絶対に必要であるからである。

現在、ザールの新聞紙上には、日本の繁栄に学び日本人の勤勉を模範にしようという紹介記事が連日掲載されていた。この時期に、首都ザールの目抜き通りに、同国の象徴たるべき建造物を日本の協力で建設することは、同国民との友好関係を増進させるために誠に望ましい事である。そればかりでなく、ザールが近隣諸国に大きな影響力を持ち始めている事から、同国に対する貢献は、即ち近隣諸国に日本を印象づけるのに大きな効果を持つものと判断される。

翻つて、ザールの放送の現状を見ると、放送のサービス区域は全国に及ばず、施設も旧式のものであつたが、既に全国的に放送の拡充・改善計画が進められている。即ち、中波ラジオ放送局は全国配置と機器更新が進行中であり、テレビジョン放送についてはマイクロ回線の建設と相俟つて放送局の設置が計画されているが、これらは何れもフランス・カナダ等の協力によるものである。地方の改善の進捗状況に反し、中央のキンシャサにおける現在の放送センターの機能は小規模かつ老朽であり、外部の番組制作会社や外国からの輸入番組に依存する割合が相当多い現状である。放送網拡充計画に対応できないばかりか現在の運営にも支障を来している模様である。

大統領はこの放送センターの建設について日本の技術力を信頼して、他国からの働きかけにかゝらず、本計画を日本に全面的に依頼する方針を固めたと云われており、本調査団に対する折衝と調査への協力は極めて積極的であつた。わが調査団としても放送センター計画の必要性とその実現の緊急性について充分理解すると共に、日本政府が此の計画に協力する必要性を痛感したのである。

しかしながら、本計画は誠に壮大な計画であり、かつザール政府の早期完成の要望があるため、相当技術的困難性のある事は否めない。従つて、更に具体的にザール日本両政府間で折衝が行なわれるべきであると思われるが、一試案としてはザール政府の指示した全計画を一挙に具体化するのではなく、三ないし四期程度に分割し放送網拡充計画の進捗と放送番組の充実按比例して放送センター全体を完成して行く方策が検討されるべきである。

従つて、次期フィージビリティ調査団は、放送センター実現のためのあらゆる方策と建築設計のための要件等を調査するため、ザール政府の熱意も考慮して、なるべく早期に派遣される事が望ましい。

以 上

1. 演奏所施設

1-1 情報省の演奏施設

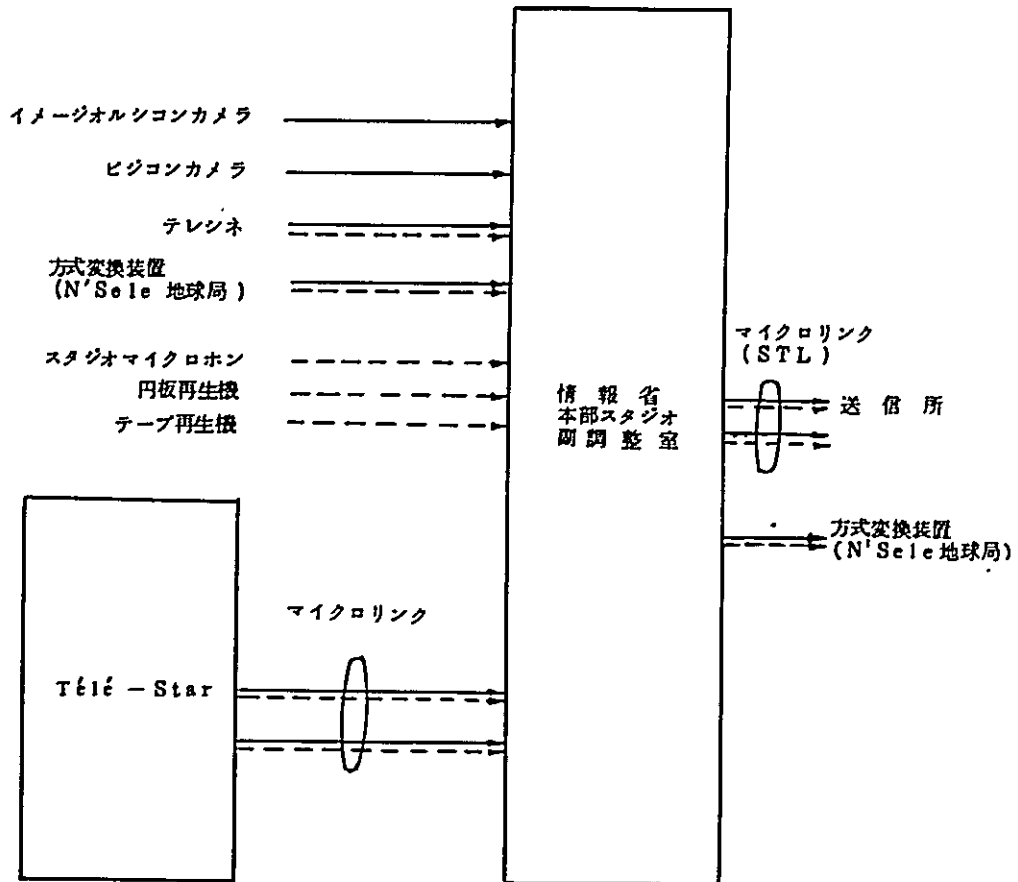
ザイール国の放送機関は、情報省 (Ministère de L'information) 直轄の国営放送「ザイールの声」(La Voix du Zaïre) である。ザイール国営放送は、ラジオ国内放送、ラジオ国際放送、テレビジョン (Télé-Zaire) の3つのメディアをもっている。情報省の構内に本部演奏所があり、首都キンシャサ市郊外の4個所に、ラジオ3、テレビジョン1の本部送信所がある。情報省の敷地は、キンシャサ市の目抜き通り「6月30日通り」(Boulevard du 30-Juin) に面し、約40,000 m²の面積を有する。建物敷地割付けの形式は、独立した建物が数個所に散在する形、いわゆるシテ (Cité) と称されるものである。テレビスタジオブロック、ラジオスタジオブロック、フォトブロック (Photographie)、シネマブロック (Cinéma)、大臣官房長室などオフィスブロックの機能配分に応じてそれぞれの建物が独立している。(付録1参照)

テレビスタジオブロックは、フロア面積約200 m²のテレビスタジオ1室、20 m²の副スタジオ1室、副調整室1室、テレシネ室、VTR室各1室、方式変換装置・マイクロウェーブリンク室、TV技術部長 (Chef des Services Techniques de la Télévision) 室を含む。副調整室 (Régie) は、主調整室 (Régie finale) 機能を持ち、マイクロウェーブリンクで、Binza送信所、N° Sélé 地球局、番組制作会社 (Télé-Star (後述)) と結合されている。副調プログラム映像入力系統は、8系統あり、Télé-Star 出力のほかスタジオライブカメラ、パターン・時計撮像用ビジコンカメラ、テレシネ、方式変換装置の各出力が接続される。音声入力系統数は10、ほかに副入力系統数5がある。マイクロホン、円板再生機、テープ録音再生機ほか接続される。(図-1参照)

Télé-Zaireの自主制作番組は放送時間にして75%、他は調達番組(外国映画など)が25%である。この本部スタジオではニュース制作が主で、殆んどどの番組は、Télé-Star から入中継されている。ニュースは、付録の定時番組表によると“Zaïre-Midi”(土・日14:00~14:30)、“Zaïre Père”(月~日20:00~20:45)、“Zaïre dernière”(月23:30~23:45、火・木・金22:45~23:00、水23:00~23:15、土・日23:15~23:30) である。週間(定時)8時間の放送である。週間(定時)全放送時間が53.5時間であるから、約15%にあたる。

テレビスタジオブロックのフロアレイアウトの概要を図-2に示す。主要構成機器を表-2に示す。副調整機器は、殆んど米RCA社製で、そのレイアウトも、映像調整卓(指揮卓)と音声調整卓が縦に並ぶ点など米国流儀がうかがわれる。照明調光機能は副調整室にはなく、

図 - 1 T  l   - Za  re 放送系統図



—→ 映 像
 - - -→ 音 声

図-2 情報名テレビスタジオブロック機器配置概要図

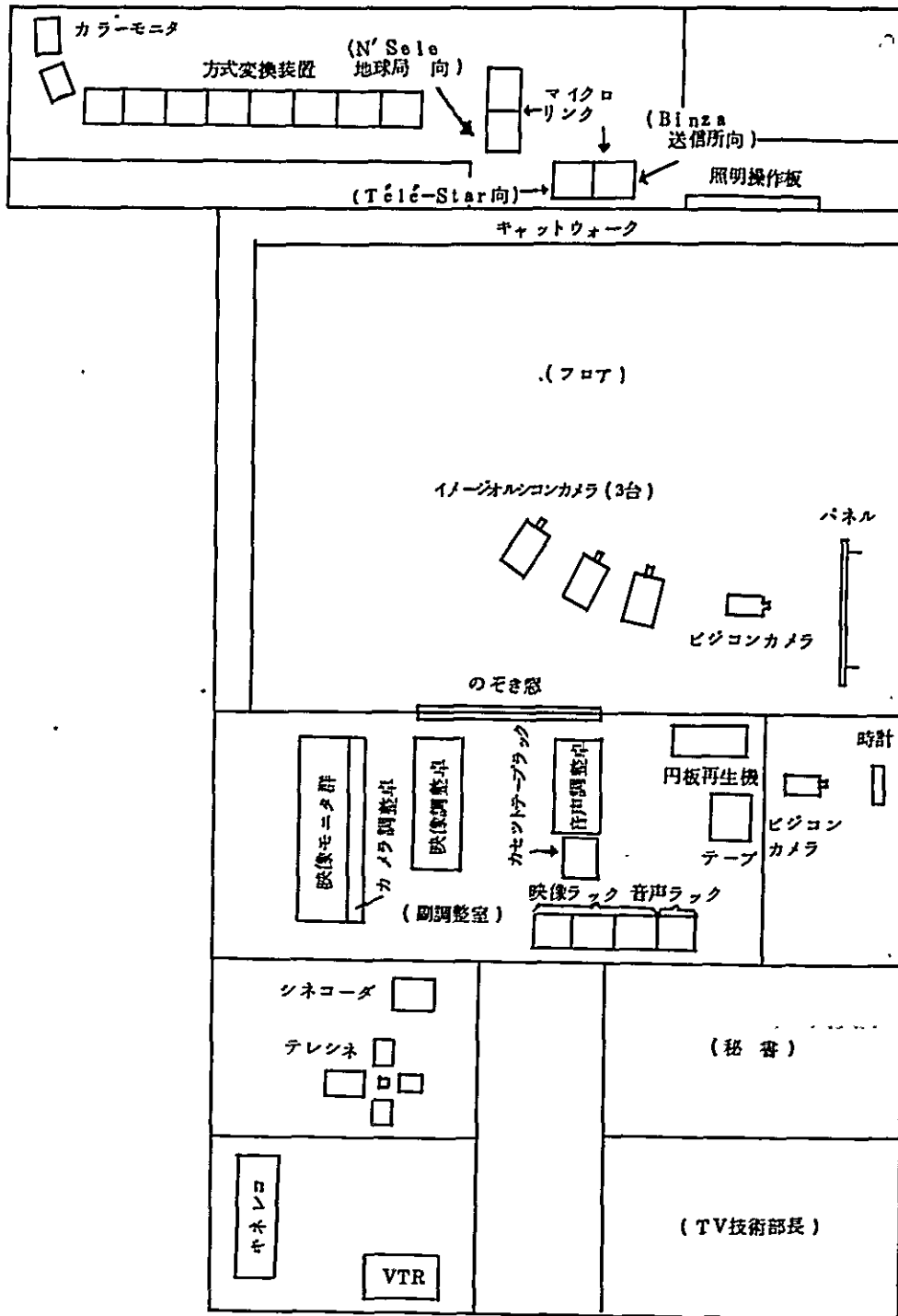


表-2 情報省テレビスタジオブロック主要機器構成表

テレビスタジオ フロア200㎡, 天井高6m, ホリゾート3m

副スタジオ フロア 20㎡

機 器 名	製 造 者 名	数 量	備 考
イメージオルシコンカメラ	仏 Thomson-CSF	3	
ビジコンカメラ	米 RCA	2	
映像調整卓	・	1	
映像付属盤	・	3	
映像モニター		9	22吋(モノクロ)×2 17吋()×7
マスタモニター		2	9吋(モノクロ)×2 波形モニター×2
音声調整卓	米 RCA	1	
音声付属盤		1	
円板再生機		1	
テープ録音再生機		3	ラック装置分2台含
テープ再生機		1	カセット形
照明器具	米 KLIEGL BROS	1式	
照明操作板	・	1	強電パッチング方式
テレシネ装置	米 RCA	1式	
16mm 映写機	・	2	TK-22形
スライド映写機	・	1	
フィルムカメラ	・	1	
シネコーダ	・	1	
VTR	・	1	TR-4形, (不使用)
キネレコ装置	・	1	(不使用)
マイクロリンク装置		3式	6~7GHz
方式変換装置	英 Rank-Cintel	1式	525NTSC→625PAL ラック8基
映像モニター		2	25吋(カラー)
中継車	米 RCA	1	、
ラジオカー		3	

スタジオ裏の部屋に操作板が壁に取り付けられている。ビジコンカメラ2台は、現在のイメージオルシコンカメラに取り換えられる前にライブカメラとして使われていたもので、現在は、フロアと副スタジオに置かれてそれぞれパターン撮像用、時報時計撮像用として専用されており余命を保っている。わが国で多用されているフライングスポットスカナー(FSS)は設置されていない。これは、ヨーロッパの放送機関と似た状況である。FSSのオペカードは、もともと米国GRAY社のTELOP装置用に使われていたものを踏襲したもので、そのサイズ縦4インチ横5インチが、カード作成上の経済性ひいてはFSSの採否を決めるポイントとなっている。因みに、文字素材については、電子式キャラクタジェネレータ(メモリ機能つき)が、とくに欧米において多用される傾向にある。

方式変換装置は、NTSC方式(走査線数525本、フィールド周波数60Hz)とPAL方式(走査線数625本、フィールド周波数60Hz)との変換(正・逆とも)を行うもので、全電子式としては、NHK、BBCに次いで世界で3番目に設置されたものである。N'SÉLÉ地球局とともに1961年6月に運用開始されている。テレビジョンの放送開始は1966年11月である。

中継車1台は、米RCA社のアSEMBルによるもので、日曜日のフットボール中継を中心に月2~3回の出動である。

ラジオスタジオブロックは、2個所に分れており、ラジオスタジオ5室と調整室(Centre de modulation)のブロックとラジオスタジオ2室のブロックである。ラジオ放送がベルギー植民地時代の1939年にスタートした頃からの建物が使用されている。前者のブロックがそれで、相当老朽している。現在7室のうち6室が稼働中である。ラジオスタジオのフロアレイアウトを最大公約数的に集約した形で図-3に示す。比較的オーソドックスな形式である。

フォトブロックの建物は、ラジオブロックの古い建物と同じ程度に老朽している。オフィスを含み5室の部屋からなり、主要構成機器(表-3)が、ゆつたりした形で配置されている。現在、モノクロ写真のみ1日平均20数枚が処理されている。政府関係の報道用写真一切がここで作られ、放送用のほか新聞報道用として提供されている。写真1はその見本であるが、"PHOTO INFOR"の印がここで提供されたものであることを示している。

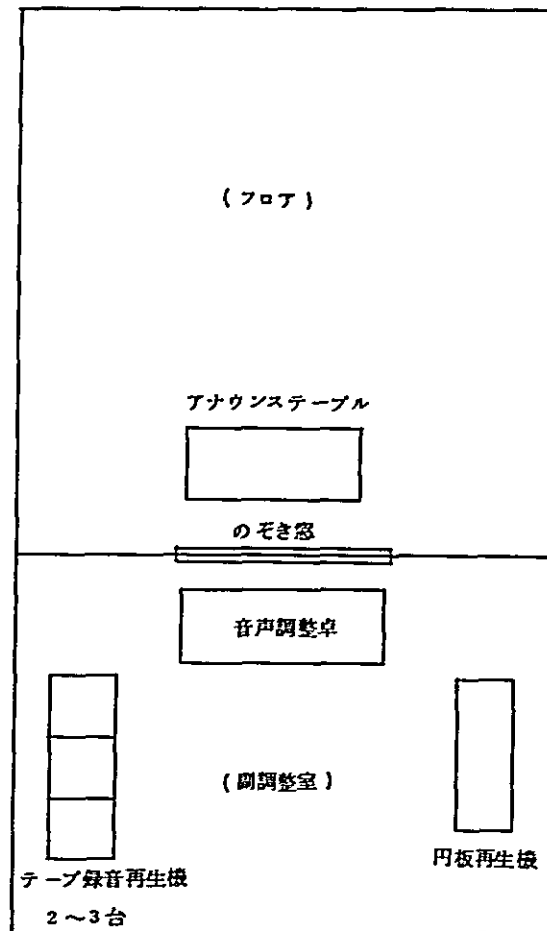
カラー現像機1台が搬入されていたが、まだ使用されていない。しかし、このことは、11月2日の打合せの席上、TV技術部長がテレビジョン放送番組の拡充計画に関連して「1973年よりPAL方式のカラー放送を開始する。」と発言したことと関連するものと考えられる。Binza送信所送信機は、マイクロウェーブリンク(STL)とともにカラー特性を備えていることから、放送番組の全面カラー化は無理としても、いわゆるパートカラーならば充分実現可能であると考えられる。

シネマブロックの建物は、テレビスタジオブロックのそのの近くにあり、1971年に完成したものである。現像室(Laboratoire)、編集室(Montage)、フィルム保管室

表 - 3 フォトブロック主要機器構成表

機 器 名	製 造 者 名	数 量	備 考
引 伸 器	仏 PRIOX	1式	
安 全 灯	仏 NARITA TOUT	1式	天井1点吊
迅 速 印 画 乾 燥 機	米 KODAK	1	
乾 燥 機	KINDER MAL	1	
循 環 水 洗 機	REIWA	1	
カ ラ - 現 像 機	ベルギ-TUBILIT	1	(不使用)
ガ メ ラ	日 MAMIYA	1式	C 2 2 0
	西独 LINHOF TECHNICA	1式	

図 - 3 情報省ラジオスタジオ機器配置概要図



(Filmothèque), 待機室 (Permanence), 音声室 (Salle de son), 事務室 (Bureau) からなり、事務室は別棟になっている。主要構成機器を表-4に示す。カメラマン、アシスタント (照明係含)、音声係、計24名が、1日平均4件、原則として技術部長 (Directeur technique, Régie National des Actualités Cinéma & TV) の命令で出動する。16mmフィルムが、毎月12,000~20,000m処理されている。35mmフィルムは、殆んど使用されておらず、フィルム録音方式としては、16-COMOPT, 16-SEP MAG, 16-MUTEが採用されている。

1-2 番組制作会社 Télé-Star

Télé-Star は、英国、西独、米国、ベルギー各国によつて提供された施設で、情報省本部より約1km離れたところにある。テレビスタジオ2室、副調整室1室をはじめ、VTR室、テレシネ室、ラック室、整備室、映写室、現像関係室、空気調節室、会議室兼試験室、電力室などが、キュービク状の2階建ビルディングに整然と配置されている。そのほか、ラジオスタジオ2室、副調整室1室を含む別館 (Annexe) が設置されている。1969年2月に完成、同年3月私企業として発足した。現在、カトリック教会に所属し、社長 (Directeur Général) は白人の神父で、約90名 (うち白人5名) の職員が働いている。運営資金の約3分の1はザール政府の負担になつており、番組制作スタッフの一部は情報省本部から出向している。情報大臣からのオーダーで、健康、教育 (成人・農業・大衆・家庭・婦人) に関する番組が制作され、これらはすべてザール国営放送 La Voix de Zaïre に提供されている。テレビジョン番組について言えば、Télé-Zaïreの番組の週間 (定時) 放送時間53.5時間の60%近くがここで制作されている。

番組考査は情報省によつて実施されているが、現在まで、全く問題はないとのことである。

テレビスタジオ2室は、おのおのフロア面積約300㎡の大スタジオ、90㎡の小スタジオで、これらは1つの副調整室と結合されている。このシステムは、いわば、2スタジオ-1コントロールルーム方式であつて、コントロールルームすなわち副調整室のレイアウトの特異性、大スタジオ天井ブリッジ (歩み板) と照明器具昇降システム、小スタジオの超汎用性などとともに特徴的な側面を形成している。

小スタジオは、フィルム編集用ダビングスタジオ、カメラ1台による固定ショット送出スタジオ (いわゆるワンカメラ顔出しスタジオ)、それにラジオスタジオとして機能しており、3通りの汎用性を有している。これは、このスタジオがもともとラジオスタジオであつて、テレビスタジオ用として改修されたことが幾らか影響している結果だとも思われる。しかし、フィルムダビング機能として、専用映写機2台をもつ独立した映写室の配置、テレビスタジオ機能として、放送用標準形イメージオルシコンカメラが設置されていることなど、このスタジオの使用目的に充分マッチングのとれた設備になつている。ラジオスタジオとしての目的からすれば、音響特性にデメリットが考えられるが、それでも、しばしば他のスタジオの

予備として使用することである。

2スタジオ-1コントロールルーム方式は、特定の番組(クイズ番組など)の制作、スタジオの使用が2室並行して行なわれない場合など主調整室(Régie finale)機能を含めた副調整室の効率的運用に対して有用である。しかし、番組編成の高密度化、番組制作の大規模化に対しては、通常の1スタジオ-1コントロールルーム方式に較べて弱点があるものと考えられる。

副調整室レイアウトは独特の流儀で、図-4に示すように、高さ約0.5mのプラットフォームが置かれ、この上に映像調整卓、映像監視卓、音声調整卓が配置されている。照明調光卓は、本部スタジオと対照的に副調整室機能にとりこまれており、プラットフォームの下、映像モニタタナのすぐ前に設置されている。半導体調光ユニット2KW、47台がリモートコントロールされている。

大スタジオ天井ブリッジは、すだれ格子状の構造で、天井全面にわたっており、照明器具昇降方式は1点吊り方式で、ハンガはブリッジを貫通し、このブリッジの上約2mのグリッドで保持されている。ハンガの昇降は、持込みの手動ハンドルまたは携帯形駆動モーターで可能である。照明器具をブリッジの上方までエレベートして点検することも可能で、この場合ブリッジの一部が展開され照明器具が容易に通過することができるようになっている。このように、ブリッジ上で照明仕込作業の大部分が消化される。この方式は西独方式といわれている。

照明配電電圧は、他の配電系統と同様に220Vである。

別館ラジオスタジオは、フロア面積がそれぞれ約80m²、20m²のスタジオ2室、副調整室1室からなる。副調整室機器は、最近西独STUDER社の製品に取り換えられた。

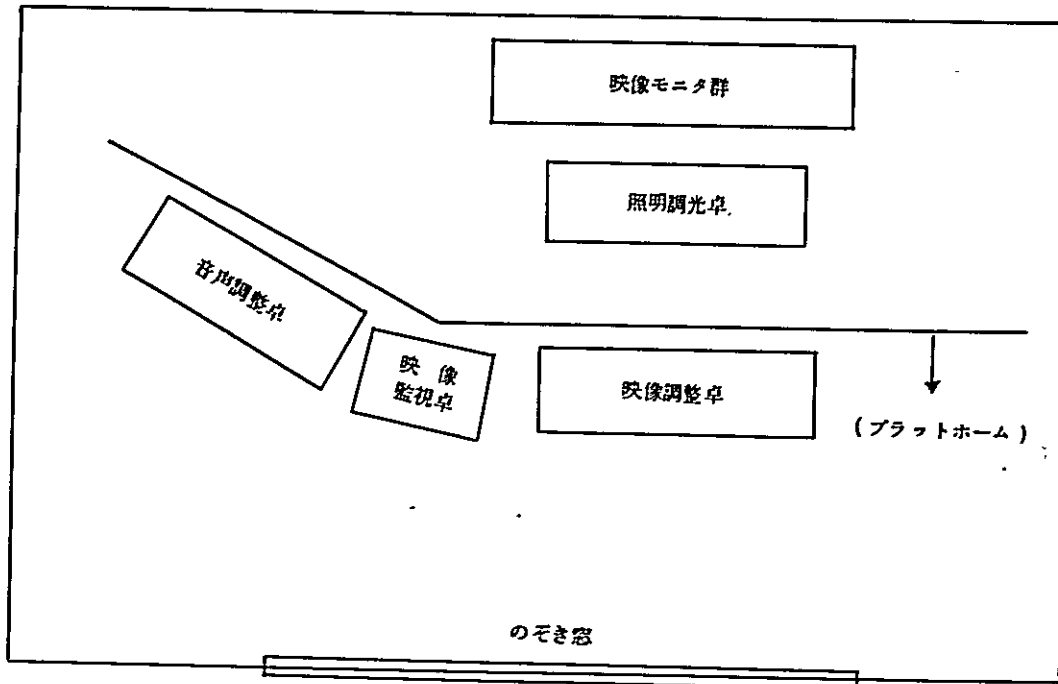
Télé-Starの主要構成機器を表-5に示す。

Télé-Star社長は、機器の保守が非常に重要であることを強調した。彼は、機器の選択について、保守の容易さが期待されるならば、高級で高価な製品を採用することを明らかにした。この点で、情報省本部TV技術部長が、しきりに、英語で「これはストロングだ。」ということと相通ずるものがあると考えられる。「ストロング」であることとは、フィールド用としても十分な性能を有し、機械的・電氣的に強じんであり、故障しても点検・修復が容易で復元力のあることと理解すべきであろう。現在、国際協力として番組制作関係でフランス人2名、技術関係でアメリカ人5名が派遣されている。これでもネットワーク全体からみた保守体制への速効的な寄与が充分でないことが、彼等をして保守の重要性を言わしむるものであろう。研修などの要員の養成と並行して、保守性の優秀な機器の提供こそ重要であることが改めて確認されるべきであろう。

表 - 4 シネマブロック主要機器構成表

機 器 名	製 造 者 名	数 量	備 考
自 動 現 像 機	西独 ARRI	1式	
編 集 機	西独 Steenbeck	1式	
シネコーダ	西独 MAX-KILLI	2	
カ メ ラ	米 Bell & Howell	1式	

図 - 4 Télé - Star 副調整室機器配置概要図



(大スタジオブリッジ
フロア)

表-5 Télé.-Star 主要機器構成表

大テレビスタジオ フロア 300㎡
 小テレビスタジオ フロア 90㎡
 大ラジオスタジオ フロア 80㎡
 小ラジオスタジオ フロア 20㎡

機 器 名	製 造 者 名	数 量	備 考
(テレビスタジオ関係)			
イメージオルシコンカメラ	西独 Fernseh	4	
映像調整卓		1	
監視卓		1	
付風盤		1式	
映像モニター		1式	
音声調整卓	西独 STUDER	1	
円板再生機		4	
テープ録音再生機	西独 Fernseh	3	
照明器具	ベルギー ADB	1式	
照明調光装置	"	1式	
照明昇降装置		1式	
VTR	米 AMPEX	3	MODEL1508 MARK II
テレシネ装置		2	
ダビング用16mm映写機		2	
自動現像機	西独 ARRI	3	
高速焼付機		1	
(ラジオスタジオ関係)			
音声調整卓	西独 STUDER	1	
テープ録音再生機	"	3	A80形

2. 放送所施設

2-1 現 状

放送所施設としては、ラジオ、FM、テレビジョン放送とも直接情報省に属している。

(1) ラジオ放送

現在同国の放送の主体であつて、La Voix du Zaïre (ザールの声)の下に、海外サービスと国内サービスを実施している。国内放送は行政区画上、各州に1局ずつ設置する放送網計画である。現在、Kinshasa近郊のN' Djili, Mutendi, Kabindaの各放送所が運用されている。

N' Djili 放送所はKinshasaの東南約10 kmの所にありPTTと局舎を共用している。諸元については表-6の通りであるが、3台の短波放送機のはかにFM1台が稼働している。短波は海外サービスで送信空中線は送信機1台に1面が対応し、切り換えは実施していない。100 KW, 50 KW用給電線は並行2線式であるが、1線が2本よりなる複導体方式を採用している。運用保守は2人ずつ24時間勤務であるが、保守状態は良好であつた。

Mutendi 放送所はKinshasaの南約30 kmの所にあり、1970年運用開始の最新中波超大電力放送所であり、運用時間が18時～6時で夜間の広域サービスを目的としている。諸元については表-6の通りであるが、送信空中線 $\lambda/4$ 、2本を $\lambda/4$ 間隔で配置し、1本に給電し、1本はリアクタンス接地として指向性を得て、Zaïre 全土をカバーするように考えてある。

当放送所は最新の設備であり、単体出力600 KWの超大電力放送機にもかかわらず、小形化され局舎自体も合理的配置であり、白人の指導のもとに運用、保守がなされている。放送機本体はPA終段部TH-504、3本並列で600 KWを得ており、IPAはTH-520、1本、MO部はTH-524 PPの終段陽極変調であり、主整流器は水銀蒸気整流管6本で12 KVの直流を得ている。変調トランスは重量3トンと軽く、主高圧トランスも1401 KVAで5.6トンと小形化されている。給電線は約100 mでかご形でインピーダンスは135 Ω である。

Kabinda 放送所はKinshasaの北西5 kmの所に位置し、1946年の運用開始で局舎、機器の老朽化がひどい。局舎はトタン屋根で扉も開放のまま運用しており、局舎内には廃物同様の放送機もあり、Zaïre 側も、近い内にN' Djiliに集約するとの発言があつた。保守についても殆どなされておらず更新待ちという感がした。なお短波3台に対して3面のダブルト形空中線が対応し、空中線の切り換えは実施していない。給電線は並行2線式を使用、中波2台の給電線は同軸地下埋設方式であり、同軸ケーブルの保護対策も不十分である。

その他、地方局として、Lubumbashi, Kisangani, Bukavu, Mbandaka, Mbuji-Mayi, Kananga, Matadi および Bandunduの8局が運用されているが、Matadi,

N' DJ I L I 放送所

放送機出力	使用周波数	製造業者	送信空中線	備考
100KW	15,245KHz	Thomson Houston TH-R875	Doublet Curtain	Vapour Cooling
50KW	11,795KHz	' TH-R775	'	'
10KW	9,770KHz	Brown Boverie	Doublet	Forced Air Cooling

M U T E N D I 放送所

放送機出力	使用周波数	製造業者	送信空中線	備考
600KW	692KHz	Thomson - CSF	$\lambda/4$ 2基, 指向性	Vapour Cooling

K A B I N D A 放送所

放送機出力	使用周波数	製造業者	送信空中線	備考
10KW	836KHz	Marconi	複導体 T形	Forced Air Cooling
1KW	1,448KHz	A M E	T形	Natural Cooling
10KW	4,880KHz	Brown Boverie	Doublet	Forced Air Cooling
10KW	11,720KHz	'	'	'
10KW	7,115KHz	'	'	'

B I N Z A 放送所

放送機出力	使用周波数	製造業者	送信空中線	備考
10KW	K1-5*	RCA TT-12EH	SG形, 8, 2, 4, 2段	
500KW		RCA		当初情報省構内で使用したもの, 現在予備放送機

* K1-5

映像 183.25MHz
音声 189.75MHz 625本

表 - 6

Bandunduを除く6局の放送機はBROWN BOVERIE の旧形10KWで73年に更新予定である。

(2) FM放送

FM放送は2ヶ所より放送している。1ヶ所は現情報省隣接地のビル屋上に設置されている。放送機は、GATES製、250W、90MHz、送信空中線は、Quadrant Dipole アンテナ4段を使用している。他の1ヶ所はN'Djili放送所に併設されており、Redifm G303(英国製)、1KW、93MHzで運用されている。情報省に設置されてある分は、民間用ビルの屋上にあるので、放送会館新設に伴ない移設の必要があり、N'Djili放送所設置分も相当老朽しているので保守が必要である。

(3) テレビジョン放送

テレビジョン放送は1966年11月24日、政権奪取1周年を記念して大統領の特命により、フランスラジオ協力庁と米国の資金協力を得て、Kinshasaの現情報省構内で開始された。現在放送所としてはBinzaにあり、地方局としてはLubumbashiに75Wの局が運用されている。

Binza放送所Kinshasaより北西約15km Matadi 港に通じる街道より200m位それた海拔525mの丘の上に位置しており、運用開始は1968年である。諸元は別表の通りであるが、主要設備としては、全固体化STL受信機2台、これはシステム予備方式を採用し、受信ヘッドは距離が短いため局舎内に設置し導波管でパラボラ空中線に接続されている。送信空中線は120mの自立4角鉄塔上にSG形(スーパーゲイン形、8、2、4、2段)空中線を設置しているが、8段の側はKinshasa方向とは逆にZaire河対岸のBrazavile方向を向きKinshasa方向は4段の方が対向している。放送機終段はRCA 6166AでWX-77D給電線で空中線に接続されている。映像、音声電力比は5/1で映像10KW、音声2KWで運用されている。保守要員は技師1名、技術員1名、工員2名であるが、保守状態は相当高度になされていると感じた。

その他KinshasaのBinza放送所以外には上記の如く、Lubumbashi局があるのみで、テレビジョン放送網としては将来の検討事項である。

(4) マイクロ回線

テレビジョン信号伝送用マイクロ回線(STL)としては、情報省構内の旧テレビアンテナ鉄塔の50m自立式に3式のパラボラ空中線が設置されている。3式とは、(ア)Binza放送所向け送信用、(イ)地球局向け送信用、(ウ)Télé-Starよりの受信用である。取付位置は上段よりBinza向け次段が地球局用で共に固定式、最下段の移動形がTélé-Star受けとなっており、FPUを兼ねているものと思われる。なお、使用周波数は6GHz帯を使用している。

(5) 地球局

Kinshasaの東方約60 kmのN' Sélé にあり、1971年運用開始した。

本施設の警備は厳重を極め軍隊がその任に当っており、写真の撮影はすべて不可であった。設備は全部ITTが請負って、各部分ごとに専門メーカーが製作したようである。送受パラボラ空中線は直径30 mのカセグレン形で上下左右の移動は電動方式となつているが常時は固定で使用され、歯車は赤く錆がでていた。送信機は2台方式で進行波管を前段とシクライストロンで増幅し、進行波管出力で20 W、クライストロン出力で3 KWである。クライストロンはVARIAN製、進行波管部はAYDIN社製モデル1005となつていた。使用周波数は5925 MHz~6425 MHzで帯域幅は500 MHz、チャンネル数は電話36チャンネル中実装24チャンネルとテレビジョン2チャンネルである。空中線の利得は60 dB、受信部の初段はパラメトリック増幅器で液体ヘリウム冷却、利得は60 dBとのことであつた。

以上の装置は空中線部に収容され、エレベーターが設備されている。操作部は別棟の空調完備の近代的な建物に収容されており、白人の指導のもとに運用、保守が行なわれていた。実際の運用状況ではテレビジョンの伝送は殆んど使用されておらず、電話回線の使用が業務記録より見ても殆んどであるが、技術的には相当高度に実施されていると感じた。

電源は近くに送電線もなく、自家発電により運用されている。

2-2 拡充計画

(1) ラジオ放送

現状の処に記載の如く、ラジオ放送が同国の重要な情報伝達の手段であり、放送網上より見ても他のFM、テレビジョン放送網に比べて確立されていることは明らかである。拡充計画として見ても、行政区画上、各州に1局ずつ設置する放送網計画は従来未設置が報ぜられていたBas-Zaïre、及びBandundu州の2州についても既に設置されており、一応完了したと見るべきである。一方、更新については上記の旧放送機使用の地方局6局のSIEMENS製の更新、Kabinda 放送所の移転による更新も計画されており、着々と充実されつつあると見るべきであろう。

またMutendi 放送所に見られるように最新の放送所でも無人化は全く考えず有人放送所として運用しているのも白人専門技術者のもとで保守、運用を修得しつつある同国として将来共暫くは必要と考える。

(2) FM放送

FM放送は現状記載の如く2局で運用されているに過ぎない。しかもプログラム内容はラジオの国内サービス放送と全く同じであり単に送出しているのみの感があり、将来共に放送網拡充についても全く聞き得なかつた。同国の広大さ、人口分布より見てもラジオのプログラムとは異なつた高忠実度放送でも志向しない限り無意味と考える。

(3) テレビジョン放送

テレビジョンについては現在Kinshasa と Lubumbashi の2局が運用されているに過ぎない。将来計画としては、Kinshasa, Lubumbashi をマイクロ回線で結び、途中4都市 (Kikwit, Kananga, Mbuji-Mayi, Kolwezi) でドロップアウトしてテレビジョン放送を実施する予定である。

(4) マイクロ回線

上記テレビジョン放送用Kinshasa, Lubumbashi 間計画はフランスと契約準備中であり、他に将来計画としてKinshasa - Mbandaka - Kisangani 回線がカナダと契約予定であり、その他としてはLubumbashi-Kisangani 回線, Kisangani - Bukavu 回線などが計画されている。

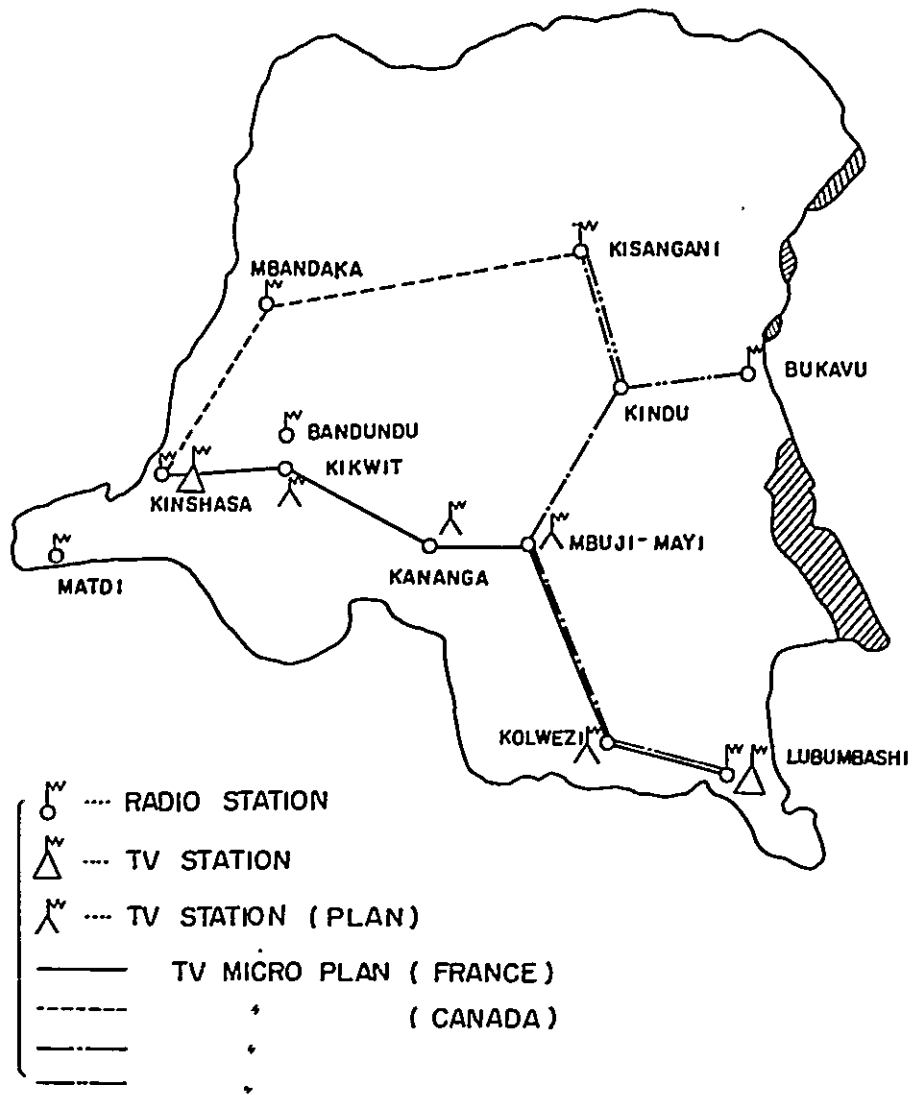
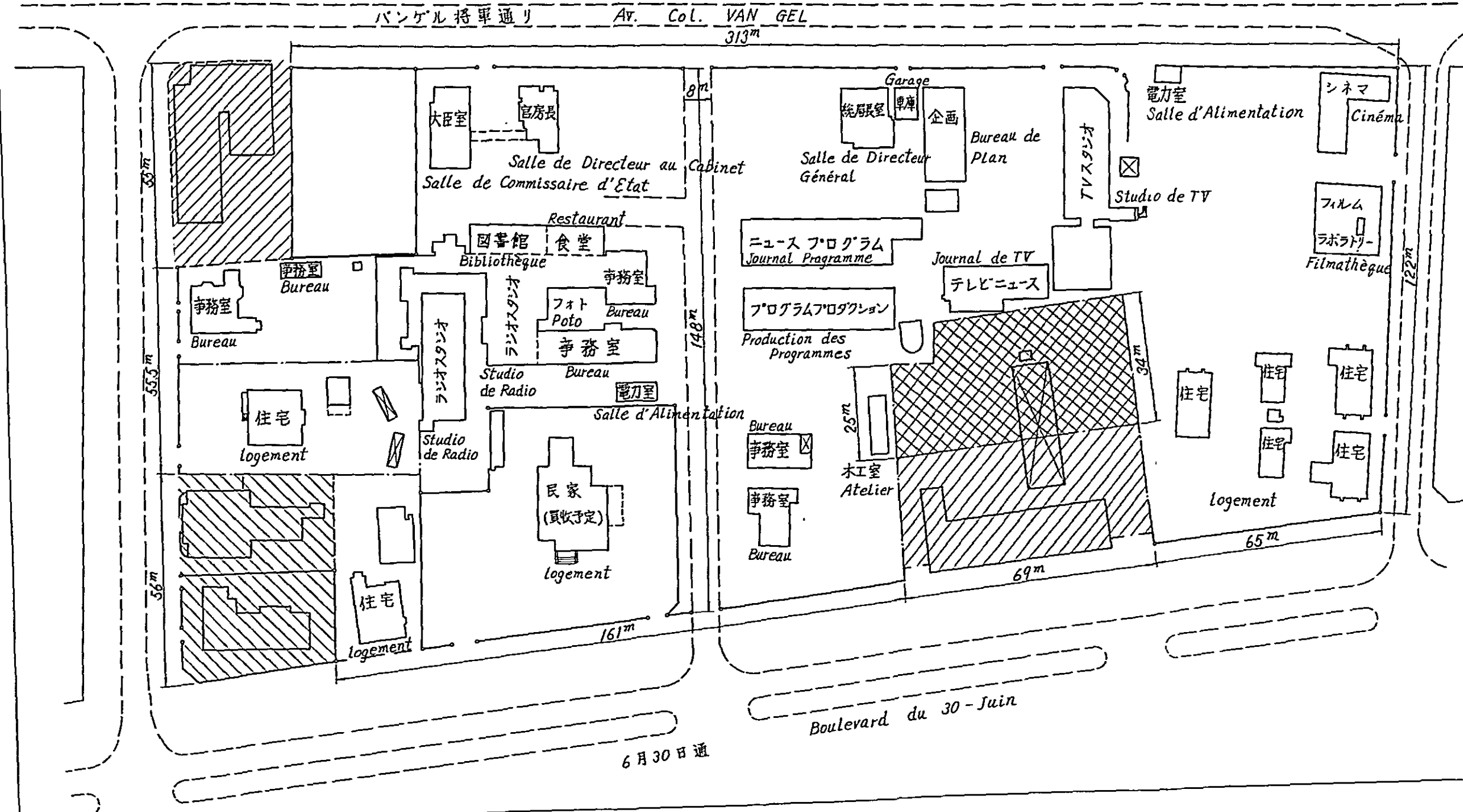
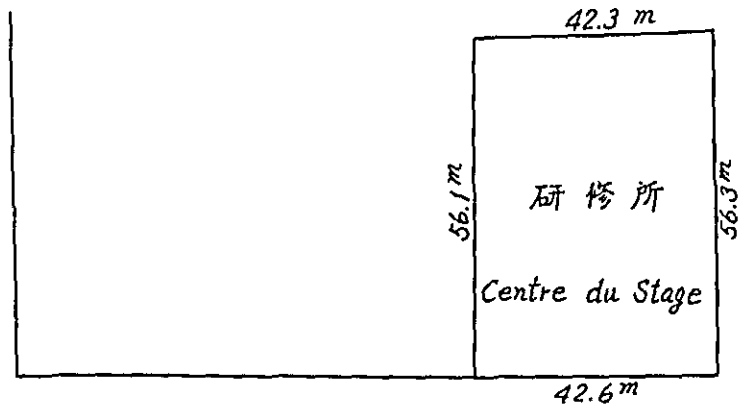


図-5 BROADCASTING NETWORK IN ZAIRE

附 録

付録(1) 情報省敷地平面図
 APPENDICE (1) Plan du Terrain du Ministère de l'Information



6月30日通

ザイール国各省大臣および次官リスト

(1972年10月18日)

内務大臣		Klthima Bin Ramazani
外務	'	Nguza Karl i Bond
法務	'	Nzondomyo A'Dokpe Lingo
情報	'	Sakombi Inongo
大蔵	'	Baruti wa Ndwale
経済	'	Ndongala Tadi Lewa
鉱業	'	Umba - di - Lutete
農業	'	Kayinga Onsi Ndal
商業	'	Namwisi ma Koyi
教育	'	Mabolia Inengo Tra Bwato
公共事業兼土地計画	'	Engulu Baangampongo Bakokele Lokanga
運輸通信	'	Eketebi Moyidiba Mondjolomba
土地	'	Kabuita Nyamabu
エネルギー	'	Muntu Kakubi Tshiondo Kabanza wa Mintenge
厚生	'	Kalonda Lomema
社会福祉	'	Kparagume Atoloyo
労働兼社会計画	'	Bintu a Tshiabola
郵政	'	Mme Mataa Nkumu wa Bowango Anganda Diowa
文化芸術	'	Bokonga Ekanga Botombole
青少年スポーツ	'	Sampasa Kaweta Milombe
外務次官		Inonga Lokongo L'Ome
農林	'	D'Zbo Kalogi
教育	'	Iloo Lokwa Bossiyo
公共行政委員会	委員長	Kasongo Mutwale
	(大臣級)	

ザ イ - ル 共 和 国 情 報 省 組 織

(1 9 7 3 年 1 月 1 日 機 構 改 革 予 定)

A) 国家委員 官房	(人 員) 1 5 ~ 2 0
B) 総局長	1 5 ~ 2 0
C) 第一局 : 総務および調査業務	1 0
第一部 : 総 務	5
第一課 秘 書	2 1 0
第二課 人 事	2 0
第三課 会 計	1 8
第二部 : 調査および文書	5
第一課 調 査	1 8
第二課 文書および広報	2 5
第二局 : ラジオ放送	1 0
第一部 : 番 組	5
第一課 管理およびレコード管理	3 0
第二課 文芸制作	3 0
第三課 教育制作	3 0
第四課 現地語制作	5 0
第五課 外部番組および地域放送の調整	1 5
第二部 : 報 道	5
第一課 時 事	1 5
第二課 演 出	1 5
第三部 : ルポルタージュ	5
第一課 制 作	1 5
第二課 演 出	1 5
第三課 スポーン	1 0
第四部 : 機関誌および世論調査	5
第一課 制 作	1 5
第二課 演 出	1 0

第五部	：	現地語		5	
		リンガラ	第一課 報道	1 0	
			第二課 ルポルタージュ	1 0	
		キコンゴ	第一課 報道	1 0	
			第二課 ルポルタージュ	1 0	
		チルバ	第一課 報道	1 0	
			第二課 ルポルタージュ	1 0	
		スワヒリ	第一課 報道	1 0	
			第二課 ルポルタージュ	1 0	
第六部	：	技術		5	
			第一課 運用	3 5	
			第二課 保守	2 6	
			第三課 送信所	4 6	
第三局	：	テレビ放送		1 0	
		第一部	：	番組	5
			第一課	管理	3 0
			第二課	教育・文芸制作	3 0
			第三課	演出	3 0
			第四課	現地語制作	2 8
			第五課	外部番組およびローカルTVの調整	1 5
		第二部	：	報道	5
			第一課	時事	1 5
			第二課	演出	1 5
		第三部	：	ルポルタージュ	5
			第一課	制作	1 5
			第二課	演出	1 5
			第三課	スポーツ	1 5
		第四部	：	機関誌および世論調査	5
			第一課	制作	1 5
			第二課	演出	1 5
		第五部	：	映画および写真	5
			第一課	映画	3 0
			第二課	写真	2 5
		第六部	：	技術	5
			第一課	運用	3 5
			第二課	保守	2 5
			第三課	送信所	2 0

1. 2 3 1

A 大臣及び官房長

I 大臣 (15~20名)

1.1	大 臣 室	40 m ²
2.1	会 議 室	60 m ²
3.1	応 接 室	20 m ²
4.1	特 別 秘 書 室	20 m ²
5.1	秘 書 室	30 m ²
6.1	待 合 室	20 m ²
7.1	参 事 官 室	20 m ²
8.1	取 次 役 員	20 m ²
9.1	プ レ ス 係 室	20 m ²
10.1	官 房 長 室	25 m ²
11.1	同 上 付 属 室	20 m ²
12.1	同 上 秘 書 室	20 m ²
13.1	同 上 随 員 室	20 m ²
14.1	秘 書 係 室	20 m ²
15.1	待 合 室	20 m ²
16.1	書 庫	20 m ²
17.1	スタジオ (居室)	40 m ²
	計	435 m ²

II 事務局長 (15~20名)

1.1	事 務 局 長 室	40 m ²
2.1	応 接 ・ 会 議 室	40 m ²
3.1	応 接 室	20 m ²
4.1	待 合 室	20 m ²
5.1	技 術 顧 問 室 (秘 書 共)	40 m ²
6.1	秘 書 室	20 m ²
7.1	事 務 室	240 m ²
	計	420 m ²

Ⅲ 広報室(10名)

1.	広報室長室(小待合室付)	30 m ²
2.	秘書室	25 m ²
3.	技術顧問室	20 m ²
4.	タイピスト室	20 m ²
5.	調達部	20 m ²
6.	電話交換室	20 m ²
	計	135 m ²

情報大臣関係合計 990 m²

B 第1局 - 総務局

I 局長関係 (5~10名)

1. 局長室	30 m ²
2. 秘書室 (2室)	40 m ²
3. 待合室	15 m ²
4. 文書保管室	15 m ²
計	100 m ²

II 人事部 (15~20名)

1. 人事部長室	30 m ²
2. 秘書室	40 m ²
3. 待合室	10 m ²

人事課

4. 人事課長室	20 m ²
5. 秘書室	20 m ²
6. 文書課	20 m ²
7. 事務室	40 m ²
8. 人事係長	20 m ²
9. 秘書室	20 m ²
10. 人事考課係	20 m ²
11. 給与係 (4室)	80 m ²
計	320 m ²

III 経理部 (20~30名)

1. 経理部長	30 m ²
2. 秘書室 (2室)	40 m ²
3. 待合室	10 m ²

会計課

4. 会計課長	20 m ²
5. 秘書室	20 m ²
6. 文書係	20 m ²
7. 事務室 (2室)	40 m ²
8. 財務係	40 m ²

厚生・労務課

9.	厚生・労務課長	20 m ²
10.	秘書室	20 m ²
11.	事務室(4室)	80 m ²
12.	文書係	20 m ²
	計	360 m ²
	第1局合計	780 m ²

C 第2局 - 広報, 写真, 映画局

I 局長関係 (15~25名)

1.	局長室 (小待合室付)	30 m ²
2.	秘書	25 m ²
3.	技術顧問 (1名)	20 m ²
4.	事務室 (2室)	40 m ²
5.	広報文書管理	25 m ²
6.	タイピスト	20 m ²
7.	会議室	30 m ²
8.	応接室	10 m ²

映画検閲

9.	事務室 (2室)	40 m ²
10.	タイプ室	50 m ²
11.	映写室	20 m ²
	計	310 m ²

II 資料部 (8~12名)

1.	部付秘書, タイピスト	40 m ²
2.	図書目録室	16 m ²
3.	図書室	30 m ²
4.	図書閲覧室	16 m ²
5.	音のライブラリー (Sonothèque)	16 m ²
6.	公文書係	20 m ²
7.	新聞, 雑誌係	20 m ²
8.	簡易印刷物係	20 m ²
9.	ポスター係	20 m ²
10.	パンフレット係	20 m ²
	計	218 m ²

III 広報部 (10~15名)

1.	広報部長	20 m ²
2.	秘書室	20 m ²
3.	待合室	10 m ²
4.	事務室 (2室)	40 m ²

5.	係	長	20 m ²
6.	秘	書 室	20 m ²
7.	待	合 室	20 m ²
8.	プ	レ ス 係	20 m ²
		計	170 m ²

IV 広報パンフレット部 (35～45名)

1.	部	長	20 m ²
2.	秘	書 室	30 m ²
3.	編	集 長	20 m ²
4.	編	集 室	50 m ²
5.	編	集 秘 書 室	40 m ²
6.	文	書 保 管 室	50 m ²
7.	印	刷 機 室	40 m ²
8.	資	材 倉 庫	50 m ²
9.	雑	誌 編 集 長	20 m ²
10.	秘	書 室	20 m ²
11.	会	計 係	20 m ²
12.	文	書 保 管 室	30 m ²
13.	編	集 室	50 m ²
14.	機	械 室	30 m ²
15.	編	集 秘 書 室	20 m ²
16.	試	作 室	20 m ²
17.	発	送 係	50 m ²
18.	資	料 保 存 室	50 m ²
19.	事	務 室 (2室)	40 m ²
		計	650 m ²

V 写真部 (15～20名)

現 像 課

1.	現	像 課 長	20 m ²
2.	秘	書 室	20 m ²
3.	写	真 室 (2室)	30 m ²
4.	現	像 室 (ネガ)	20 m ²
5.	現	像 室 (ポジ)	30 m ²

6.	仕 上 げ 室	3 5 m ²
7.	薬 調 室	1 0 m ²
8.	引 伸 室 (細長い室)	3 0 m ²
9.	事 務 室 (2室)	4 0 m ²
1 0.	薬 剤 倉 庫	1 5 m ²
1 1.	印 画 紙 倉 庫	1 5 m ²

写真資料課

1 2.	写 真 資 料 課 長	2 0 m ²
1 3.	秘 書 室	2 0 m ²
1 4.	待 合 室	1 0 m ²
1 5.	タ イ ピ ス ト	3 0 m ²
1 6.	資 料 検 索 室	5 0 m ²
1 7.	写 真 資 料 室	1 0 0 m ²
1 8.	事 務 室	4 0 m ²
	計	5 3 5 m ²

VI 映 画 部

制作課 (35名)

1.	制作課長室 (待合室付)	3 0 m ²
2.	秘 書	2 0 m ²
3.	タ イ ピ ス ト	2 0 m ²
4.	打 合 せ 室	3 0 m ²
5.	制 作 担 当 主 任	2 0 m ²
6.	美 術 担 当 主 任	2 0 m ²
7.	演 出 担 当 者 (2名)	4 0 m ²
8.	スクリプト・ライター	2 0 m ²
9.	オペレーター	2 0 m ²
1 0.	映 像 主 任	2 0 m ²
1 1.	音 声 主 任	2 0 m ²
1 2.	録 音 係	2 0 m ²
1 3.	技 師 室	2 0 m ²
1 4.	整 備 室	2 5 m ²
1 5.	資 材 倉 庫	2 5 m ²
1 6.	電 気 部 品 倉 庫	2 5 m ²

17.	フィルム装填室	16m ²
18.	スタジオ(Horizont高さ12m)	180m ²
19.	スタジオ(Horizont高さ12m)	600m ²
20.	化粧室	16m ²
21.	化粧室(個室4室)	16m ²
22.	化粧室(大部屋2室)	30m ²
23.	スタジオ美術	25m ²
24.	小道具倉庫(天井6m)	100m ²
25.	試写室	120m ²
26.	映写機室	20m ²
27.	録音室	24m ²
28.	音声調整室	20m ²
29.	ネガ編集室	32m ²

配給課(25名)

30.	配給課長(小待合室付)	30m ²
31.	受付	20m ²
32.	秘書室	20m ²
33.	資料室	20m ²
34.	選別室	30m ²
35.	フィルム資料室(2室)	300m ²
36.	フィルム保全室	80m ²
37.	映写関係機器整備室	32m ²
38.	タイピスト室	20m ²
	計	2,126m ²

第2局合計

4,009m²

D 第3局 (ラジオ局)

I 局長関係

1.	局長室(待合室付)	30m ²
2.	秘書	16m ²
3.	秘書室	20m ²
4.	タイピスト	20m ²
5.	文書係	16m ²
6.	受付係	16m ²
7.	打合せ室	40m ²
8.	聴取者調査係	30m ²
9.	国際渉外係	30m ²
10.	技術顧問	20m ²
11.	同秘書	16m ²
	計	254m ²

II 番組部(200名)

1.	番組部長室(待合室付)	30m ²
2.	番組部副部長室	20m ²
3.	秘書	16m ²
4.	秘書室	40m ²
5.	文書係	20m ²
6.	技術顧問	20m ²
7.	共同控室	30m ²
8.	番組調整係	30m ²
9.	教養番組交換	30m ²
10.	会議室	30m ²
	計	266m ²

a) フランス語ローカル放送課

1.	主調	20m ²
2.	制作係	40m ²
3.	農林水産番組	30m ²
4.	教育番組	30m ²
5.	学校放送番組	30m ²
6.	ラジオ・コマーシャル	30m ²

7.	バラエティ及び広報番組	30 m ²
8.	演出係	30 m ²
9.	秘書室	20 m ²
	計	260 m ²

b) 現地語放送

1.	主 調	20 m ²
2.	秘書室	20 m ²
3.	農林水産番組 (2室)	80 m ²
4.	ラジオ教育番組 (2室)	80 m ²
5.	ラジオ・バラエティ番組 (2室)	80 m ²
	計	280 m ²

c) 国際放送

1.	主 調	20 m ²
2.	秘書室	20 m ²
3.	番組制作	40 m ²
4.	バラエティ番組	30 m ²
5.	番組資料室 (2室)	60 m ²
	計	170 m ²

d) 都民放送 (Emission Kincapitale)

1.	主 調	20 m ²
2.	秘書室	20 m ²
3.	番組制作	40 m ²
4.	番組資料室	20 m ²
	計	100 m ²
	合計	1,076 m ²

III 報道番組 (50名)

a) 全国番組 (フランス語)

1.	編集主任室 (小待合室付)	30 m ²
2.	編集副主任室	20 m ²
3.	編集主任付秘書室 (4~5人)	40 m ²
4.	事務室 (12室)	192 m ²

5.	編 集 室	5 0 m ²
6.	タ イ ピ ス ト 室	2 0 m ²
7.	資 料 室 (原稿類, 録音等)	3 0 m ²
8.	資 料 室 (参考図書資料室)	5 0 m ²
9.	ルポルタージュ番組	2 0 m ²
1 0.	技 術 顧 問	2 0 m ²
1 1.	秘 書	1 6 m ²
	計	4 8 8 m ²

b) 現地語番組

1.	キコンゴ番組編集室	2 0 m ²
2.	リンガラ番組編集室	2 0 m ²
3.	スワヒリ番組編集室	2 0 m ²
4.	チルバ番組編集室	2 0 m ²
5.	ルポルタージュ番組	2 0 m ²
6.	資 料 室	2 0 m ²
7.	文 書 保 管 室	2 0 m ²
8.	予 備 室	3 6 m ²
	計	1 7 6 m ²

c) 国際放送

1.	スワヒリ語番組編集室	2 0 m ²
2.	フランス語番組編集室	2 0 m ²
3.	英語番組編集室	2 0 m ²
4.	ポルトガル語番組編集室	2 0 m ²
5.	スペイン語番組編集室	2 0 m ²
6.	ルポルタージュ番組編集室	2 0 m ²
7.	秘 書 室	2 0 m ²
8.	予 備 室	2 0 m ²
9.	予 備 室	3 6 m ²
	計	1 9 6 m ²

N 技術部 (200名以内)

1.	技 術 部 長	20 m ²
2.	同 副 部 長	20 m ²
3.	C.T. 事 務 室	20 m ²
4.	秘 書 室	16 m ²
5.	秘 書	16 m ²
6.	秘 書 室 (技術関係)	20 m ²
7.	写 真 焼 付 室	20 m ²
8.	調 査 室	40 m ²
9.	B F センター長	20 m ²
10.	H E センター長	20 m ²
11.	開 発 課 長	20 m ²
12.	秘 書	16 m ²
13.	保 全 センター長	20 m ²
14.	倉 庫 事 務 所	16 m ²
15.	技術顧問 (2名)	40 m ²
16.	デ ス ク	20 m ²
17.	図 書 閱 覧 室	60 m ²
18.	技 術 主 任	20 m ²
19.	ルポルタージュ番組用資材室	20 m ²
20.	リ レ コ 室	20 m ²
21.	測 定 室 H F	20 m ²
22.	測 定 室 B P	20 m ²
23.	休 憩 室	10 m ²
24.	実 験 室	30 m ²
25.	整 備 室	80 m ²
26.	機 械 工 作 室	30 m ²
27.	工 作 室	30 m ²
28.	倉 庫 H F	100 m ²
29.	倉 庫 B P	100 m ²
30.	会 議 室	40 m ²
31.	調 整 センター	40 m ²
32.	コピー制作録音室 (録音機 8 台)	60 m ²
33.	編 集 室 (10室) (4 m ² × 7, 6 m ² × 3)	46 m ²
34.	試 聴 室 (10室)	40 m ²

35.	スタジオ(音楽用)高さ6~8m	200m ³
36.	スタジオ(4室ドラマ用)高さ5m	400m ³
37.	小スタジオ(64m ² ×4室)高さ4m	256m ³
38.	ニュース・スタジオ(30m ² ×4室)高さ3m	120m ³
39.	アナブース(12m ² ×4室)高さ3m	48m ³
40.	副調室(15室)	300m ³
	計	2,434m ³

V 総務部(35~40名)

1.	総務部長室(副部長同室)	30m ³
2.	秘書室	30m ³
3.	配車係	20m ³
4.	小物倉庫	20m ³

a) 開発管理課

5.	録音センター	20m ³
6.	ルポルタージュ	20m ³
7.	録音再生室	20m ³
8.	映画録音室	20m ³
9.	局外中継	20m ³
10.	著作権係	20m ³

b) 送信管理課

11.	フランス語放送係	20m ³
12.	現地語放送係	20m ³
13.	国際放送係	20m ³
14.	都民放送係	20m ³
15.	アナウンサー控室	40m ³

c) レコード資料

16.	レコード資料課長(副課長同室)	30m ³
17.	レコード試聴室(4室)	40m ³
18.	レコード室	120m ³

d) 録音テープ資料課

1 9.	録音テープ資料課長 (副課長同室)	3 0 m ²
2 0.	秘 書 室	2 0 m ²
2 1.	録音テープ室 (試聴設備1式付き)	1 0 0 m ²

e) 図 書 室

2 2.	図書室長 (副室長同室)	3 0 m ²
2 3.	秘 書 室	2 0 m ²
2 4.	閱 覧 室	1 2 0 m ²
	計	8 5 0 m ²

VI 局舎管理部

1.	局舎管理部長 (待合室付)	2 0 m ²
2.	同 副 部 長	2 0 m ²
3.	秘 書	1 6 m ²
4.	秘 書 室	2 0 m ²
5.	文 書 係	2 0 m ²
6.	倉 庫	4 0 m ²
	計	1 3 6 m ²

第 3 局 (ラジオ局) 合計

5, 6 1 0 m²

E 第4局(テレビ局)

I 局長関係(15~20名)

1.	テレビ局長(待合室付)	30 m ²
2.	秘 書	16 m ²
3.	秘 書 室	20 m ²
4.	タ イ ピ ス ト	20 m ²
5.	記 録 文 書	16 m ²
6.	受 付	16 m ²
7.	打 合 室	40 m ²
8.	受 信 者 調 査	30 m ²
9.	国 際 渉 外	30 m ²
10.	技 術 顧 問	20 m ²
11.	秘 書	16 m ²
	計	254 m ²

II テレビ技術部(150名)

1.	テレビ技術部長(待合室付)	30 m ²
2.	秘 書 室(2室)	24 m ²
3.	技 術 顧 問	20 m ²
4.	技 術 関 係 図 書 室	30 m ²

技術施設

5.	公開スタジオ(観客席500,舞台300m ²)	1,000 m ²
6.	中形スタジオ	200 m ²
7.	大形スタジオ(奈落付)	400 m ²
8.	小形スタジオ(映写スクリーン付)	50 m ²
9.	小形副調(コメンテーター室を含む)	20 m ²
10.	T V 副 調(3室)	120 m ²
11.	T V 主 調	30 m ²
12.	ア ナ プ ー ス	10 m ²
13.	テレシネ, スライド, テロップ字幕(4室)	50 m ²
14.	倉 庫	40 m ²
15.	V T R 室(2室, モニター装置付)	30 m ²
16.	V T R 編 集 室	16 m ²
17.	フ ィ ル ム 室	20 m ²

18.	キネスコープ室	16m ²
19.	インパルス・センター	50m ²
20.	録音室	20m ²
21.	整備工作室	45m ²
22.	中央倉庫	70m ²
23.	倉庫主任	20m ²
24.	秘書室	16m ²
25.	音声調整室	20m ²
26.	リレコ室	15m ²
27.	開発主任(5名)	100m ²
28.	技術顧問(2名)	36m ²
29.	打合室	60m ²
30.	映像調整室	15m ²
31.	カメラマン室(2室)	25m ²
32.	映像主任	25m ²
33.	テレビ開発主任	20m ²
34.	センター長	20m ²
35.	秘書室	20m ²
36.	保全主任	20m ²
37.	送信主任	30m ²
38.	オルガン演奏室(防音)	20m ²
39.	電気技師室	40m ²
40.	自家発電および配電室	100m ²
41.	機械工作室(遮音)	30m ²
42.	大道具倉庫(映画と共用)	150m ²
43.	スタジオ美術アトリエ(映画と共用)	100m ²
44.	大道具組立て	100m ²
45.	大道具工作室(映画と共用)	150m ²
46.	デザイン・デスク室	12m ²
47.	個室(8室)	72m ²
48.	10人部屋(2室)	60m ²
49.	2人部屋(4室)	60m ²
50.	車庫および中継機材整備室	60m ²
51.	衣裳室	100m ²
	計	3,787m ²

注：この他必要に応じて，下記についても配慮を要する。

美 粧
出演者控室
来訪者接遇施設
宿泊施設
技術資材倉庫 等々

Ⅲ 映画制作部（10名）

1.	カメラマン（5名）	50 m ²
2.	整備室	20 m ²
3.	現像室（映画と共用）	60 m ²
4.	映写室	10 m ²
5.	暗室（2室）	32 m ²
6.	薬剤倉庫	80 m ²
7.	編集室（12室）	144 m ²
8.	ネガ編集室（現像室の隣室とする）	32 m ²
9.	写真作業室	70 m ²
10.	係長	20 m ²
11.	資材倉庫	50 m ²
12.	局外放送用機材室	50 m ²
13.	焼付室（高さ6m）	50 m ²
14.	試写室	40 m ²
15.	オーディトリウム内技術室	30 m ²
16.	オーディトリウム内映写室	30 m ²
17.	映画音声録音室	150 m ²
18.	タイトル撮影室	40 m ²
19.	T V 室	25 m ²
20.	倉庫	20 m ²
	計	993 m ²

Ⅳ 番組部

1.	番組部長（待合室付）	30 m ²
2.	秘書室	20 m ²
3.	制作管理室	30 m ²
4.	制作関係秘書室（2室）	20 m ²

5.	演 出 室	4 0 0 m ³
6.	資 料 室	4 0 m ³
7.	作 業 室	2 0 m ³
8.	専 用 試 写 室	2 0 m ³
9.	編 集 室	6 m ³
1 0.	教 育 テ レ ビ 室	8 0 m ³
1 1.	レ コ ー ド 資 料 室	4 0 m ³
	計	7 0 6 m ³

V 報 道 部 (5 0 名)

1.	編 集 長 室 (待 合 室 付)	3 0 m ³
2.	秘 書 室 (2 室)	4 0 m ³
3.	記 者 室 (1 2 室 , 2 4 名)	1 9 2 m ³
4.	テ レ タ イ プ 室 (2 室)	1 0 m ³
5.	編 集 秘 書 室	4 0 m ³
6.	作 業 室	3 0 m ³
7.	ニ ュ ー ス 試 写 室 (2 室)	6 0 m ³
8.	フ ィ ル ム 編 集 室 (4 室)	4 0 m ³
9.	報 道 資 料 室	1 0 0 m ³
1 0.	記 者 会 見 室 (中 庭 , テ ラ ス 付)	5 0 m ³
	計	5 9 2 m ³

VI 総 務 部 (1 0 名)

1.	出 演 者 控 室 (1 室)	3 0 m ³
2.	管 理 室 (秘 書 室 付)	6 0 m ³
3.	電 話 交 換 台	1 5 m ³
4.	守 衛 室	1 0 m ³
5.	消 防 室	1 5 m ³
6.	医 務 室	1 5 m ³
7.	ホ ー ル (事 務 室 3 室 付)	1 0 0 m ³
	計	2 4 5 m ³

第 4 局 (テ レ ビ 局) 合 計

6, 5 7 7 m³

F 研修センター（テレビ、ラジオ、映画）

1.	教 授 室	25 m ²
2.	セ ン タ ー 長	30 m ²
3.	秘 書 室	23 m ²
4.	顧 問 室	8 m ²
5.	技 術 顧 問 室	12 m ²
	計	96 m ²
6.	調 査 室	30 m ²
7.	作 業 室	25 m ²
8.	テ レ ビ ジ ョ ン	10 m ²
9.	ラ ジ オ	10 m ²
10.	ラ ジ オ ス タ ジ オ	50 m ²
11.	テ レ シ ネ	15 m ²
12.	カ メ ラ 調 整	13 m ²
13.	多 目 的 ホ ー ル	50 m ²
14.	管 理 室	12 m ²
15.	大 道 具 倉 庫	25 m ²
16.	ミ ク シ ン グ ・ ル ー ム	10 m ²
	計	250 m ²
17.	映 画 編 集 室	26 m ²
18.	ラ ジ オ 編 集 室 (2室)	10 m ²
19.	ラ ジ オ 技 術 室	30 m ²
20.	ラ ジ オ ・ ス タ ジ オ	55 m ²
21.	テ レ ビ 技 術 室	35 m ²
22.	テ レ ビ ・ ス タ ジ オ	50 m ²
23.	テ レ ・ タ イ プ 室	4 m ²
24.	ポ リ テ ク	48 m ²
25.	ラ ジ オ ・ 制 作	36 m ²
26.	ラ ジ オ 報 道	24 m ²
27.	テ レ ビ 報 道	24 m ²
28.	テ レ ビ 制 作	36 m ²
	計	378 m ²
	総 計	724 m ²

G 共用業務

1.	保養所関係業務	50 m ³
2.	キャフェテリア, レストラン等	400 m ³
3.	電気技師宿泊所(4)	600 m ³
4.	臨時宿泊設備	600 m ³
	{ 宿泊室 (10) 200 m ³ }	
	{ アパート(10) 400 m ³ }	
5.	寄宿舎(研修センター専用)	400 m ³
6.	空調機械室	2,500 m ³
7.	空調操作室	1,500 m ³
8.	電気室	2,000 m ³
9.	局舎管理(機械室, ガレージを含む)	3,000 m ³
10.	局舎警備	1,000 m ³
	計	12,050 m ³

概 要

A) 情報大臣関係

大臣関係	435 m ²
事務局長関係	420 m ²
広報室関係	135 m ²
計	990 m ²

B) 第1局(総務局)

局長関係	100 m ²
人事部	320 m ²
経理部	360 m ²
計	780 m ²

C) 第2局(広報局)

局長関係	310 m ²
資料部	218 m ²
広報部	170 m ²
広報パンフレット部	650 m ²
写真部	535 m ²
映画部	2,126 m ²
計	4,009 m ²

D) 第3局(ラジオ局)

局長関係	254 m ²
番組部	1,076 m ²
報道部	860 m ²
技術部	2,434 m ²
総務部	850 m ²
局舎管理部	136 m ²
計	5,610 m ²

E) 第4局(テレビ局)		
局長関係		254 m ²
技術部		3,787 m ²
映画制作部		993 m ²
番組部		706 m ²
報道部		592 m ²
総務部		245 m ²
計		6,577 m ²
F) 研修センター		724 m ²
G) 共用業務		12,050 m ²
(資料関係施設を含まず)		
総計		30,740 m ²
約		31,000 m ²
外構施設等		6,000 m ²
総合計		37,000 m ²

実 施 費 用 概 算

I 情報省 - 総務局 - 研修センター

$$(990 + 780 + 724 \text{ m}^2) + 20\% = 2,992 \text{ m}^2$$

$$2,992 \text{ m}^2 \times 1 (\text{係数}) = \text{約 } 3,000 \text{ m}^2$$

II 映画局 - ラジオ局 - テレビ局

$$(4,009 + 5,610 + 6,577 \text{ m}^2) + 20\% = 19,435 \text{ m}^2$$

$$19,435 \times 1.4 (\text{係数}) = \text{約 } 27,200 \text{ m}^2$$

III 共用部門

$$12,050 \text{ m}^2 + 20\% = 14,460 \text{ m}^2$$

$$14,460 \times 0.8 (\text{係数}) = 11,570 \text{ m}^2$$

$$\text{概算総計} \quad 42,000 \text{ m}^2$$

GRILLF DES PROGRAMMES
TÉLÉ - ZAÏRE

Lundi.

17h30	Mire
17h57	Annonce des disques
18h00	Zaïre sept jours - Edition Lingala
18h30	Ata ndele tokokoma
19h00	Emission enfantine: "Grand-père raconte" (MUKALENGE)
19h30	Retour à la terre
19h45	cours d'anglais
20h00	Zaïre lère.
20h45	Catch (ou lutte ancestrale)
21h15	Impact (émission mensuelle)
21h45	Feuilleton
22h45	La parade des vedettes
23h15	Intimement vôtre
23h30	Zaïre dernière
23h45	Fin des émissions.

Mardi.

17h30	Mire
17h57	Annonce des disques
18h00	Ezaleli ya bankoko
19h00	Emission enfantine: (ANGEBI)
19h30	Magazine des Sports
20h00	Zaïre lère.
20h45	Sémaphore
21h15	Long métrage
22h45	Zaïre dernière
23h00	Fin des émissions.

Mercredi.

17h30	Mire
17h57	Annonce des disques
18h00	Malako ma monganga
18h15	Salongo

18h30 Libala lia bosembo (Jeu télévisé)
 19h00 Emission enfantine: (MONGITA)
 19h30 Nous les jeunes
 20h00 Zaïre lere
 20h45 Feuilleton
 21h15 La femme et ses problèmes
 21h30 Dramatique (O. R. T. F. /TÉLÉ - ZAÏRE)
 23h00 Zaïre dernière
 23h15 Fin des émissions.

Jeudi.

17h30 Mire
 17h57 Annonce des disques
 18h00 Bilengé oyé
 18h30 Biso basi
 19h00 Emission enfantine: "Grand-père raconte" (MUKALENGE)
 19h30 Lire c'est découvrir
 20h00 Zaïre lère.
 20h45 Le carrousel kinois
 21h15 Long métrage
 22h45 Zaïre dernière
 23h00 Fin des émissions.

Vendredi.

17h30 Mire
 17h57 Annonce des disques
 18h00 Télé-Sketch
 19h00 Emission enfantine: (ANGEBI)
 19h30 Que sais-je (Jeu télévisé)
 20h00 Zaïre lère.
 20h45 Education sanitaire
 21h15 M. P. R. En Avant
 21h45 En Plein vent
 22h45 Zaïre dernière
 23h00 Fin des émissions

Samedi.

12h30	Mire
12h57	Annonce des disques
13h00	Emission scientifique ou médicale
14h00	Zaire-Midi
14h30	Variétés zairoises
15h30	Long métrage
17h00	Magazine africain
17h30	Cours d'anglais
17h45	Pile ou face
18h30	La femme face à la caméra
19h00	Emission enfantine: (MONGITA)
19h30	La Kinoise
20h00	Zaire lère.
20h45	Le coin des artistes
21h15	Feuilleton
21h45	Télé-Show
23h15	Zaire dernière
23h30	Fin des émissions.

Dimanche

09h30	Mire
09h57	Annonce des disques
10h00	En série, partez.
10h15	Tam-Tam du week-end
11h00	Zaire-Matin - Edition linagala.
11h30	Télé-dimanche (Variétés)
12h30	Le Bidule
13h00	Omnisports
14h00	Zaire-Midi
14h30	Des arts et des hommes
15h00	Long métrage
16h30	Actualités télévisées
16h45	Feuilleton
17h00	Arts et métiers (Télénama)
17h30	Pour vous citoyennes
18h00	Connaissez-vous l'Afrique (Jeu télévisé)

18h30 Emission enfantine: "Grand-père raconte" (MUKALENGE)
18h00 Zaïre sept jours
19h30 Téléscopie
19h45 Dernier Taxi
20h00 Zaïre lère.
20h45 Tango ya baboti
21h15 Bakolo Miziki
22h15 Télé-film
23h15 Zaïre dernière
23h30 Fin des émissions.

GRILLE DES PROGRAMMES
RADIO KINSHASA

LUNDI:

- 0H00 - Kin mondiale
- 0H30 - Place aux vedettes
- 1H30 - Yoka mpo oyeba (EKARBA)
- 2H30 - Bulletin d'information
- 3H00 - L'heure de l'harmonie (MUMOSI)
- 4H00 - Nkenda ye bingana ya Zaire (KATENDI)
- 5H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 6H00 - Réveil musculaire
- 6H15 - Matin service (KAYUMBI)
- 6H30 - Kin premiere
- 7H00 - Matin service (suite)
- 7H30 - Kin matin
- 7H40 - Matin service
- 8H00 - Education sanitaire en lingala
- 8H15 - La chanson dédicacée (LUKEZO)
- 9H00 - La 1/2 heure du Militant (Lingala)
- 9H30 - La 1/2 heure du Militant (Kikongo)
- 10H00 - La route du danger (LUKISA)
- 11H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 12H00 - Midi magazine (KAYA)
- 12H30 - Kin midi
- 13H00 - Midi magazine (suite)
- 13H30 - Bulletin d'information
- 13H45 - Midi magazine
- 14H00 - Magazine de la femme en lingala
- 14H30 - La 1/2 heure du Militant (Swahili)
- 15H00 - La 1/2 heure du Militant (Tshiluba)
- 15H30 - Courrier des auditeurs en lingala
- 16H00 - Magazine des parents en lingala
- 16H30 - La 1/2 heure du Militant (Français)
- 17H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 18H00 - Emission des F. A. Z.

- 19H00 - Antennes scolaires
- 19H30 - Kin soir
- 20H00 - La Voix de l'Angola libre
- 20H30 - A l'Ecole du Parti
- 21H30 - Kin dernière
- 22H00 - Top 9.24 (TSHILAMBU)
- 23H00 - Ntendula ya ndoto (TEDIKA)

MARDI.

- 0H00 - Kin mondiale
- 0H30 - Siri-ya-Ndoto (AMURI)
- 1H30 - La radio à votre chevet (LUKISA)
- 2H30 - Bulletin d'information
- 3H00 - Club des orchestres (TSHIBANGU)
- 4H00 - Kinshasa alfajiri (MIANDA)
- 5H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 6H00 - Réveil musculaire
- 6H15 - B. P. 22.44 (MASIULA)
- 6H30 - Kin première
- 7H00 - B. P. 22.44 (suite)
- 7H50 - Kin matin
- 7H40 - B. P. 22.44 (suite)
- 8H00 - Education sanitaire en Swahili
- 8H15 - B. P. 22.44 (suite)
- 9H00 - La 1/2 heure du Militant (Lingala)
- 9H50 - La 1/2 heure du Militant (Kikongo)
- 10H00 - Panorama (KALALA-SELO)
- 11H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 12H00 - Appetit sur antenne (ANEKI-NSUKADI)
- 12H30 - Kin midi
- 13H00 - Appetit sur antenne (suite)
- 13H30 - Bulletin d'information
- 13H45 - Appetit sur antenne (suite)
- 14H00 - Magazine de la femme en Swahili
- 14H30 - La 1/2 heure du Militant (Swahili)
- 15H00 - La 1/2 heure du Militant (Tshiluba)
- 15H30 - Courrier des auditeurs en Swahili

16H00 Magazine des parents en Swahili
 16H30 La à heure du Militant en Français
 17H00 Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Likongo
 18H00 Emission des F. A. Z.
 19H00 Le tour du Zaïre (SEEY)
 19H30 Kin soir
 20H15 Salongo (Telestar)
 20H30 A L'ECOLE du Parti
 21H30 Kin dernière
 22H00 L'heure du mystère
 23H00 Bonne nuit (TUSEVO)

MERCREDI.

0H00 Kin mondiale
 0H30 Dijandula dia bilota (KAZUMBA)
 1H30 La boîte à musique (MANSUEKI).
 2H30 Bulletin d'information
 3H00 Matinales variétés (WASSA)
 4H00 Bela nshiba mwa matshio
 5H00 Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
 6H00 Réveil musculaire
 6H15 Sport pour tous (BASUNGA)
 6H30 Kin première
 7H00 Sport pour tous (suite)
 7H50 Kin matin
 7H40 Sport pour tous (suite)
 8H00 Education sanitaire en Tshiluba
 8H15 Concert des auditeurs (MATETA)
 9H00 La 1/2 heure du Militant (Lingala)
 9H30 La 1/2 heure du Militant (Kikongo)
 10H00 Salut les copains (NZAZI)
 11H00 Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
 12H00 Midi magazine (KAYA)
 12H30 Kin midi
 13H00 Midi magazine (suite)
 13H30 Bulletin d'information
 13H45 Midi magazine (suite)

- 14H00 - Magazine de la femme en Tshiluba
- 14H30 - La 1/2 heure du Militant (Swahili)
- 15H00 - La 1/2 heure du Militant (Tshiluba)
- 15H30 - Courrier des auditeurs en Tshiluba
- 16H00 - Magazine des parents en Tshiluba
- 16H30 - La 1/2 heure du Militant (Français)
- 17H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 18H00 - Emission des F.A. Z.
- 19H00 - Magazine des métiers (MAKOSO-LENGE)
- 19H30 - Kin soir
- 20H00 - La Voix de l'Angola libre
- 20H30 - A l'Ecole du Parti
- 21H30 - Kin dernière
- 22H00 - Les grandes figures de l'histoire (LEMBE)
- 22H30 - Jazz dans la nuit (MUSONGO)
- 23H00 - Sur toute la gamme (TUSEVO)

JEUDI.

- 0H00 - Kin mondiale
- 0H30 - Les secrets des songes (TAMBWE LUSHAPATA)
- 1H30 - Musique d'hier et d'aujourd'hui (BIYEVANGA)
- 2H30 - Bulletin d'information
- 3H00 - Safari sentimental (BWALANKAY-SUMBU)
- 4H00 - Tongo etani ndeko ya makambo (LOCKY)
- 5H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 6H00 - Réveil musculaire
- 6H15 - Matin service (KAYUMBI)
- 8H50 - Kin première
- 7H00 - Matin service (suite)
- 7H30 - Kin matin
- 7H40 - Matin service (suite)
- 8H00 - Education sanitaire en Kikongo
- 8H15 - La chanson dédiée (KUKESO)
- 9H00 - La 1/2 heure du Militant (Lingala)
- 9H50 - La 1/2 heure du Militant (Kikongo)
- 10H00 - Tout pour vous (WASSA)
- 11H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo.

- 12H00 - Appetit sur antenne (ANEKI)
- 12H30 - Kin midi
- 13H00 - Appetit sur antenne (suite)
- 13H30 - Bulletin d'information
- 13H45 - Appetit sur antenne
- 14H00 - Magazine de la femme en Kikongo
- 14H30 - La 1/2 heure du Militant (Swahili)
- 15H00 - La 1/2 heure du Militant (Tshiluba)
- 15H30 - Courrier des auditeurs en Kikongo
- 16H00 - Magazine des parents en Kikongo
- 16H30 - La 1/2 heure du Militant (Français)
- 17H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Likongo
- 18H00 - Emission des F.A. Z.
- 19H00 - 3171 la femme à la page (Bwalankayi)
- 19H30 - Kin-soir
- 20H00 - Sketch en lingala
- 20H30 - A l'Ecole du Parti
- 21H30 - Kin dernière
- 22H00 - Regard sur le passé (NGANA)
- 22H30 - Aux rythmes du tambour (WASSA)
- 23H30 - Variétés (Discothèque)

VENDREDI.

- 0H00 - Kin mondiale
- 0H30 - Club des orchestres (TSHIBANGU)
- 1H30 - Les nuits sans voile (MWAVI)
- 2H30 - Bulletin d'information
- 3H00 - La Radio à votre chevet (LUKISA)
- 4H00 - Kio Cha Zaïre
- 5H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 6H00 - Réveil musculaire
- 6H15 - B. P. 22.44 (MKSIULA)
- 6H30 - Kin première
- 7H00 - B. P. 22.44 (suite)
- 7H30 - Kin matin
- 7H40 - B. P. 22.44 (suite)
- 8H00 - Education sanitaire en Français
- 8H15 - B. P. 22.44 (suite)

- 9H00 - La 1/2 heure du Militant (Lingala)
- 9H30 - La 1/2 heure du Militant (Kikongo)
- 10H00 - Kin scoop (TIELBE-MUSONGO)
- 11H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 12H00 - Midi magazine (KAYA)
- 12H30 - Kin midi
- 13H00 - Midi magazine (suite)
- 13H30 - Kin midi
- 13H45 - Midi magazine
- 14H00 - Magazine de la femme (Français)
- 14H30 - La 1/2 heure du Militant (Swahili)
- 15H00 - La 1/2 heure du Militant (Tshiluba)
- 15H30 - Africa-matanga (TAEBKE MUSHAPATA)
- 16H00 - Magazine des parents (Français)
- 16H30 - La 1/2 heure du Militant (Français)
- 17H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 18H00 - Emission des F.A. Z.
- 19H00 - Kin 24 (NSUMBU)
- 19H30 - Kin soir
- 20H00 - La Voix de l'Angola libre
- 20H30 - A l'Ecole du Parti
- 21H30 - Kin dernière
- 22H00 - Chansons aux cent visages
- 23H00 - Minuit variétés (TSHILAMBO)

SAMEDI.

- 0H00 - Kin mondiale
- 0H30 - Les rêves de la vie (NGANA)
- 1H30 - Place à la danse (MATSHI)
- 2H30 - Bulletin d'information
- 3H00 - Rythmes à la mode (MANGONO)
- 4H00 - Butuku Ewatshi (TSHIBUYI)
- 5H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 6H00 - Réveil musculaire
- 6H15 - Matin service (KAYUMBI)
- 6H30 - Kin première
- 7H00 - Matin service (suite)

- 7H30 - Kin matin
- 7H40 - Matin service
- 8H00 - La chanson dédiée (LUMEZO)
- 9H00 - En plein vent (ANEKI-NSAKADI)
- 10H00 - Eureka (N Z A Z I)
- 11H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 12H00 - Appétit sur antenne (ANEKI-NSAKADI)
- 12H30 - Kin midi
- 13H00 - Appétit sur antenne (suite)
- 13H30 - Bulletin d'information
- 13H45 - Courrier des auditeurs (KALALA-SELO)
- 14H30 - La semaine sportive (BASUNGA)
- 15H00 - Concerts des auditeurs (MATETA)
- 16H00 - Le magazine des jeunes
- 16H30 - Les secrets de la Discothèque (MANSUEKI)
- 17H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 18H00 - Emission des F. A. Z.
- 19H00 - La monde en marche (LEMBE)
- 19H30 - Kin soir
- 20H00 - Sketch en lingala
- 20H30 - A l'Ecole du Parti
- 21H30 - Kin dernière
- 22H00 - La boîte aux lettres (DJATA)
- 23H00 - Jazz dans la nuit (MUSONGO)
- 23H30 - Variétés (BIYEVANGA)

DIMANCHE:

- 0H00 - Kin mondiale
- 0H30 - Sakele ya ndoto (EKAMBA)
- 1H30 - Le safari sentimental (NSUMBU-BWALANKAY)
- 2H30 - Bulletin d'information
- 3H00 - Disco matin (TSHIMANGA)
- 4H00 - Uhuru za Africa (TSHLAMALA)
- 5H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 6H00 - Pop dimanche (MAYUMBI BEYA)
- 6H30 - Kin première
- 7H00 - Pop dimanche (suite)

- 8H00 - Hit-Parade de Radio Kinshasa
- 8H30 - Devant le Juke-Box (LUMETO)
- 9H30 - A teavers le monde (AYIMPAM)
- 10H00 - Tango ya ba Wendo
- 11H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 12H00 - Point zéro (TAMBWE MUSHAPATA)
- 12H30 - Kin midi
- 13H00 - Point zero (suite)
- 13H30 - La semaine Zaïroise
- 14H00 - Place aux vedettes (LUMETO)
- 15H00 - Concert des auditeurs (MATETA)
- 16H00 - Sport et musique (BASUNGA)
- 17H00 - Nouvelles en Swahili-Tshiluba-Lingala-Kikongo
- 18H00 - Sport et musique (BASUNGA)
- 19H30 - Kin soir
- 20H00 - Les enfants et nous (MAVELA)
- 20H30 - Echo culturel
- 21H00 - Enquête et commentaires (NSUMBU)
- 21H30 - Kin dernière
- 22H00 - Perspectives économiques (NAMUYOLO)
- 22H30 - Magazine des curieux (NSUMBU)
- 23H00 - Lisapo Monge (EPUNDJOLA)

POPULATION

Densité de la Population en République du Zaïre, par province,
Ville, Territoire et District (1970)

Division Administration	Population Total (1)	Superficie (en Km ²) (2)	Densité (1)/(2)
1. VILLE DE KINSHASA	1, 323, 039	9, 965, 000	132.7
Com.: Bandalungwa	60, 243	6, 820	8, 833.2
Barumbu	59, 553	4, 720	12, 617.1
Bumbu	61, 366	5, 300	11, 578.4
Gombe	22, 615	29, 330	771.1
Kalamu	100, 441	6, 640	15, 126.6
Kasa-Vubu	67, 525	5, 040	13, 397.8
Kimbanseke	63, 006	237, 780	349.1
Kinshasa	73, 826	2, 870	25, 723.3
Kintambo	38, 748	2, 720	14, 245.5
Kisenso	39, 578	16, 600	2, 384.2
Lemba	61, 607	23, 700	2, 599.4
Limete	41, 340	67, 600	611.5
Lingwala	46, 209	2, 880	16, 044.7
Makala	49, 346	5, 600	8, 811.7
Maluku	14, 678	7, 948, 800	1.8
Masina	36, 158	69, 780	518.5
Matete	63, 369	4, 880	12, 985.4
N'Diili	102, 881	11, 400	9, 024.6
Ngaba	36, 702	4, 000	9, 175.5
Ngafula	29, 811	358, 920	83.1
Ngaliema	63, 844	224, 300	284, 284.6
Ngiri-Ngiri	64, 272	3, 400	18, 903.5
N'Sele	24, 096	898, 790	26.8
Selembao	46, 906	23, 180	2, 023.5
2. Pce DU BAS-ZAIRE	1, 504, 361	53, 920, 000	27.6
Ville de MATADI	110, 436	110	1, 003.9
Territ.: Boma	116, 175	4, 330, 000	26.8
Lukula	120, 586	3, 270	36.8
Tshela	204, 553	3, 090	66.1
Seke-Banza	80, 739	3, 620	22.3
Dt. du BAS-FLEUVE	522, 053	14, 310	36.4
Territ.: Kasangulu	50, 176	4, 680	10.7
Kimvula	46, 055	3, 371	13.6
Kuozi	110, 280	6, 784	16.2
Madimba	210, 498	7, 968	26.4
Mbanza-Ngungu	298, 265	8, 507	35.1
Songololo	156, 598	8, 190	19.1
Dt. des CATARACTES	871, 872	39, 500	22.1

Division Administration	Population Total (1)	Superficie (en Km2) (2)	Densite (1)/(2)
3. Pce de BANDUNDU	2,600,556	295,658,000	8.6
Ville de Bandundu	74,467	222	335.4
Territ.: Inongo	88,101	21,184	3.6
Kiri	62,444	12,070	5.1
Kutu	131,989	18,773	7.0
Mushie	96,217	30,392	3.1
Oshwe	51,714	41,824	1.2
Dt. INONGO	429,465	127,243	3.3
Territ.: Idiofa	326,470	18,926	17.2
Bagata	126,903	16,898	7.4
Bulungu	396,467	13,426	29.0
Gungu	208,369	14,572,000	14.2
Masi-Manimba	312,245	14,327	21.7
Dt. KWILU	1,370,454	78,219	17.5
Territ.: Feshi	90,000	19,187	4.6
Kahemba	75,399	19,264	3.9
Kasongo-Lunda	176,541	26,648	6.6
Kenge	203,778	18,126	11.2
Popokabaka	68,492	6,749	10.1
Dt. KWANGO	614,210	89,126	6.8
4. Pce de L'EQUATEUR	2,431,812	403,293	6.0
Ville de MBANDAKA	107,910	460	234.5
Territ.: Basankusu	61,807	21,239	2.9
Bikoro	104,151	22,450	4.6
Bolomba	70,123	24,598	2.8
Bomongo	35,597	17,827	1.9
Ingende	69,145	17,329	3.9
Dt. EQUATEUR	340,823	103,443	3.3
Territ.: Bongandanga	115,903	27,910	4.1
Bumba	235,618	15,498	15.2
Businga	132,356	17,411	7.6
Lisala	137,164	14,733	9.3
Moboyi	118,772	25,956	4.5
Dt. MONGALA	739,813	101,508	7.2
Territ.: Befale	47,376	16,797	2.8
Boende	112,494	19,718	5.7
Bokungu	97,045	19,996	4.8
Djolu	75,436	14,494	5.2
Ikela	101,536	22,567	4.4
Monkoto	32,399	36,385	0.9
Dt. TSHUAPA	466,286	132,957	3.5

Division Administration	Population Total (1)	Superficie (en Km2) (2)	Densite (1)/(2)
Territ.: Bosobolo	89,659	13,277	6.7
Budjala	167,385	13,434	12.4
Gemena	264,584	11,488	23.0
Kungu	146,387	12,848	11.3
Libenge	108,965	13,878	7.8
Dt. UBANGI	776,980	64,925	11.9
5. Pce DU HAUT-ZAIRE	3,356,419	503,239	6.6
Ville de Kisangani	229,596	1,910	120.2
Territ.: Bafwansende	51,650	47,087	1.1
Banalia	73,650	24,430	3.0
Basoko	106,404	22,436	4.7
Isangi	197,813	15,770	12.5
Opala	147,249	26,665	5.5
Ubunda	83,551	42,196	1.9
Yahuma	54,228	19,073	2.8
Dt. HAUT - ZAIRE	714,345	197,657	3.6
Territ.: Aketi	82,984	25,417,000	3.2
Ango	65,962	34,704	1.9
Bambesa	85,404	9,128	9.3
Bondo	174,277	38,075	4.5
Buta	63,568	18,098	3.5
Poko	116,573	22,909	5.1
Dt. BAS - UELE	588,768	148,331	3.9
Territ.: Dungu	155,326	32,446	4.7
Faradje	125,745	13,108	9.8
Niangara	60,345	9,204	6.5
Rungu	180,702	8,605	20.9
Wamba	180,068	10,305	17.5
Watsa	93,433	16,015	5.8
Dt. HAUT - ZAIRE	795,619	89,683	8.8
Territ.: Aru	192,554	6,740	28.5
Djugu	354,907	8,184	43.7
Irumu	185,971	8,730	22.7
Mahagi	236,196	5,221	45.2
Mambasa	55,266	36,783	15.0
6. Pce DU KIVU	3,361,883	256,662	13.1
Ville de Bukavu	134,861	60	2,247.6
Territ.: Fizi	113,529	15,786,000	7.1
Kabare	218,539	1,960	112.0
Kalehe	186,272	5,507	32.6
Mwenga	127,371	11,172	11.4
Shabunda	122,608	25,216	4.8
Uvira	133,501	3,148	42.4
Walungu	228,856	1,800	127.1
Dt. SUD - KIVU	1,130,676	64,789	17.4

Division Administration	Population Total (1)	Superficie (en Km ²) (2)	Densite (1)/(2)
Territ.: Beni	348,566	7,484	46.5
Goma	74,835	485	154.2
Lubero	363,809	18,096	20.1
Masisi	273,920	4,734	57.8
Rutshuru	333,916	5,289	63.1
Walikale	78,334	23,475	3.3
Dt. NORD - KIVU	1,473,380	59,563	24.7
Territ.: Kabambare	88,346	19,513	4.5
Kasongo	188,049	16,201	11.6
Kibombo	43,766	24,953	1.7
Kindu	107,207	21,181	5.1
Lubutu	36,763	16,055	2.2
Pangi	109,057	14,542	7.4
Punia	49,778	19,805	2.5
Dt. MANIEMA	622,966	132,250	4.7
7. Pce DU SHABA	2,753,714	496,965,000	5.5
Ville de Lubumbashi	318,000	747	425.7
Ville de Likasi	146,394	235	622.9
Territ.: Kambove	67,599	22,466	3.0
Kasenga	66,702	26,676	2.5
Kipushi	63,927	12,059	5.3
Mitwaba	53,252	25,894	2.1
Pweto	92,100	22,673	4.1
Sakania	50,736	21,675	2.3
Dt. HAUT - ZAIRE	394,316	131,443	2.9
Territ.: Dilolo	223,695	24,963	8.9
Kapanga	67,016	24,700	2.7
Kolwezi	166,507	23,421	7.1
Lubudi	51,586	17,963	2.8
Sandoa	87,469	30,363	2.8
Dt. LUALABA	596,273	121,308	4.9
Territ.: Bukama	139,846	19,865	7.0
Kabongo	126,783	20,503	6.1
Kamina	145,057	40,214	3.6
Kaniama	39,766	13,400	2.9
Malema-Nkulu	150,916	14,222	10.6
Dt. HAUT - LOMAMI	602,368	108,204	5.5
Territ.: Kabalo	64,944	15,250,000	4.0
Kalemie	125,138	30,600	4.1
Kongolo	120,223	13,403	8.9
Manono	180,575	34,198	5.2
Moba	152,979	24,350	6.2
Nyunzu	52,484	17,227	3.0

Division Administration	Population Total (1)	Superficie (en Km ²) (2)	Densite (1)/(2)
8. Pce DU KASAI-OCCID. Ville de Kananga	2,433,861 428,960	156,967 378	15.5 1,134.8
Territ.: Demba	194,816	8,961	21.7
Dibaya	256,892	11,191	22.9
Dimbelenge	166,275	13,223	12.5
Kazumba	321,061	12,881	24.9
Luiza	232,389	14,702	15.8
Dt. LULUA	1,171,433	60,958	19.2
Dekese	41,456	25,175	1.6
Ilebo	122,265	15,634	7.8
Luebo	104,811	8,450	12.4
M.ve.	192,933	20,155	7.8
Tshikapa	372,003	26,217	14.1
Dt. KASAI	833,468	95,631	8.7
9. Pce KASAI ORIENTAL Ville de Mbuji-Mayi	1,872,231 256,154	168,216,000 64	11.1 4,002.4
Territ.: Candajika	148,094	5,726	25.8
Kabinda	160,000	14,373	11.2
Kamiji	17,849	2,100	8.4
Mwene-Ditu	177,527	11,747	15.1
Sentery	82,152	22,480	3.2
Tshikenge	533,103	7,395	72.0
Dt. KABINDA	1,118,725	63,821	17.5
Territ.: Katako-Kombe	123,948	25,490	4.8
Kole	53,795	17,682	3.0
Lodja	147,123	12,054	13.0
Lomela	57,567	26,346	2.1
Lubefu	61,615	12,229	5.0
Lusambo	53,304	10,530	5.1
Dt. SANKURU	497,352	104,331	4.7
Ensemble (Rep. du Zaire)	21,637,876	2,344,885	9.2

新聞論調

ザールの "ELIMA" 新聞 1972年10月31日の記事

"情報センター建設のための日本政府調査団"

郵政省の深谷調査官が率いる4名の重要かつ強力な日本調査団は、公式使節として金曜日の朝からキンシャサに滞在している。

日本調査団は、情報省総局長ドンゴ氏から会談に招かれた。

日本の調査団長は、情報、新聞および宣伝担当のサコンビ大臣に会見する前に、AZAPの新聞記者に対して、今回の調査の目的は、情報センター建設の可能性についての事前調査であり、情報省当局とともに調査することにあるむねを表明した。

総局長ドンゴ氏は、国家行政委員会の情報部が情報センター建設を高く評価していること、また、それが人民にあたえる役割と重要性を強調した。彼は、そのうえ、情報大臣がキンシャサだけでなく、地方も含めて、すべて近代化するという野心的なプログラムを検討したことを明らかにする前に、本件は、モブツ大統領によって同意された特殊なものであることを強調した。

また、ドンゴ氏が明らかにしたところでは、地方に関しては、ドイツのシーメンス社に決定している。同社は、来年MATADIとBANDUNDUを除いて、地方における完全な放送網を運用にこぎつける予定である。

一方、現在地方で運用中の設備は将来更新される予定であり、そのプログラムは、2段階に分けて行なわれる。第1段階では、18の新しい送信機（キンシャサに4、地方に14）および32の新しいスタジオの引渡しを含んでいる。

第2段階は、キンシャサの情報センターおよび技術的設備の建設を含むであろう。このセンターは、情報省の関連するところのすべての業務を包含する事務室をも含んでいる。

この計画は、まだ技術調査の段階であり、日本とザールの間では何の協約も調印されていない。

なお、日本調査団は、ザール滞在の10日間に大蔵省および大統領府も訪問する予定である。

付録(7) 写真



写真1 「PHOTO INFOR」見本

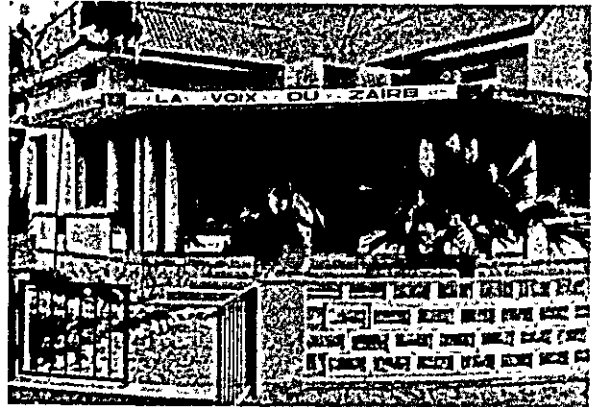


写真2 情報省本部テレビスタジオブロック

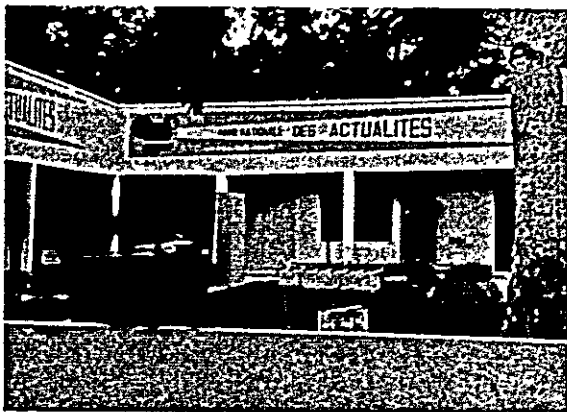


写真3 情報省本部シネマブロック

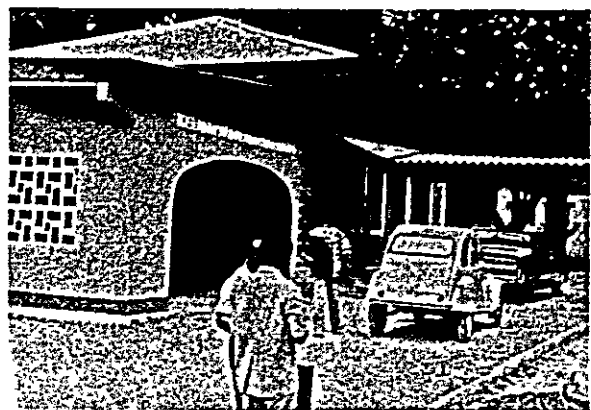


写真4 情報省本部情報大臣室

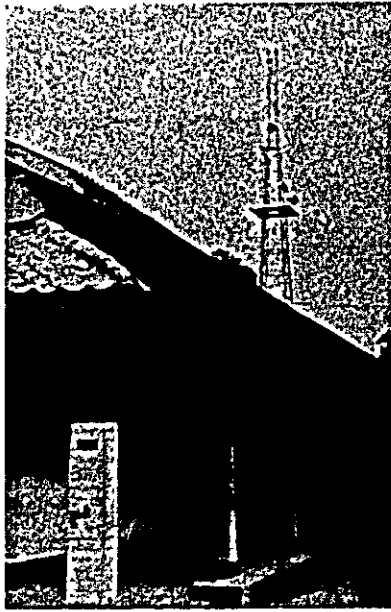


写真5 情報省本部オフィスブロック

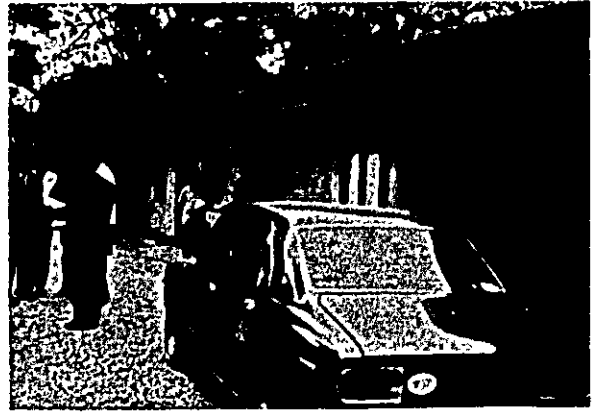


写真6 情報省本部打合せ室(図書室)前



写真7 情報省本部打合せConférencé an Cité de L'information

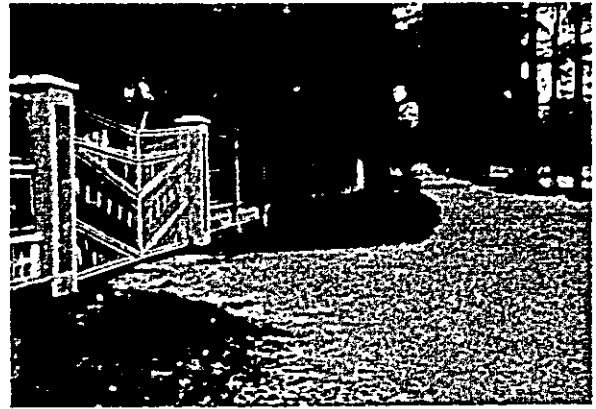


写真8 情報省本部情報省表通り

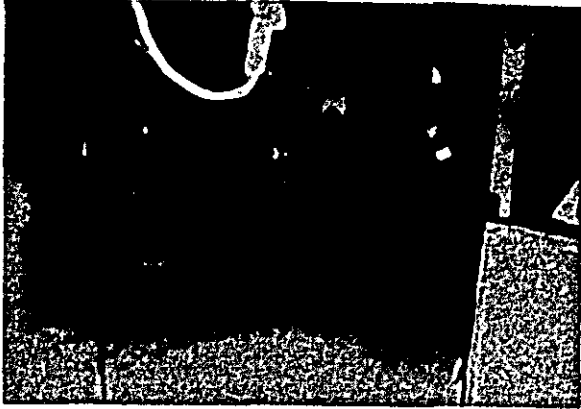


写真9 情報省本部テレビスタジオ

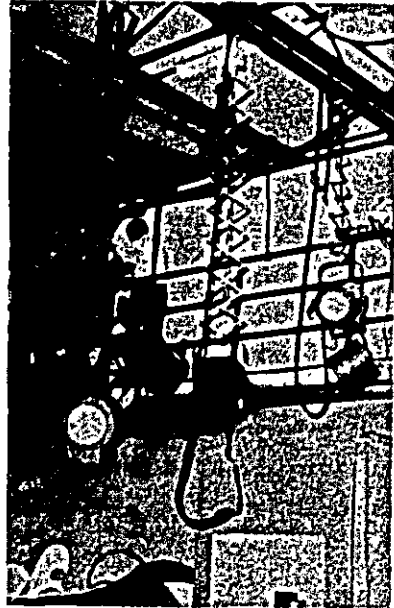


写真10 情報省本部テレビスタジオ
ライティングエレベーション

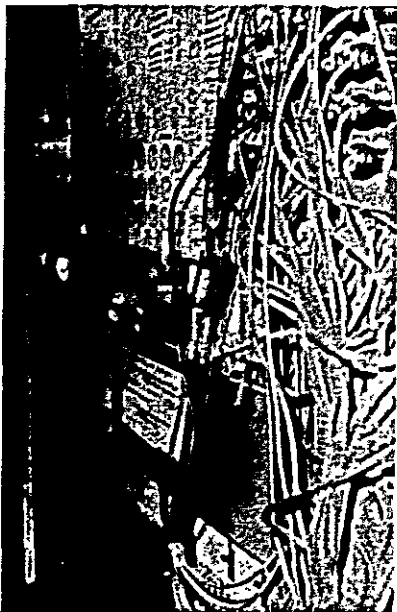


写真11 情報省本部テレビスタジオ
照明操作板



写真12 情報省本部テレビスタジオ
イメージオルソコンカメラ

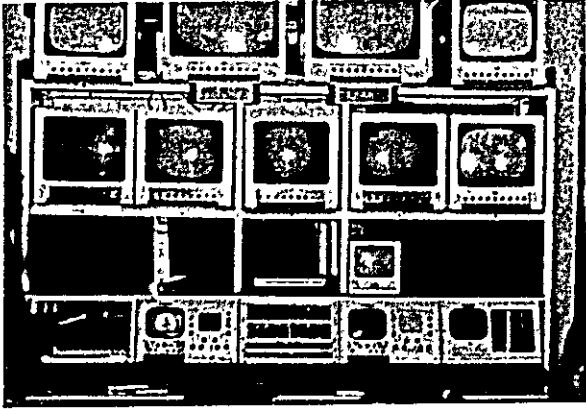


写真 13 情報省本部テレビスタジオ調度室
カメラ調整卓・映像モニタ



写真 14 情報省本部テレビスタジオ調度室
映像調整卓

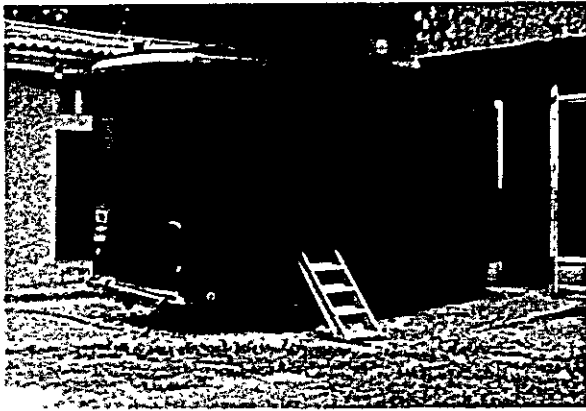


写真 15 情報省本部テレビ中継車

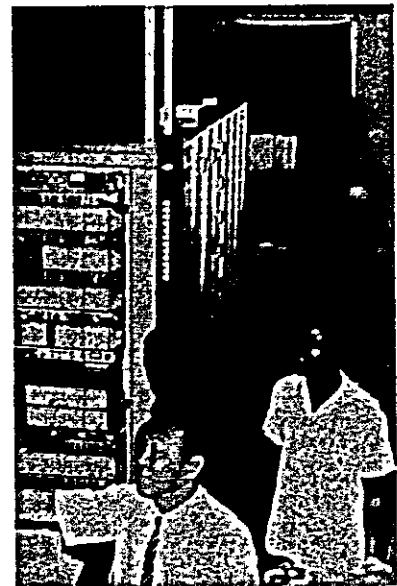


写真 16 情報省本部方式交換装置

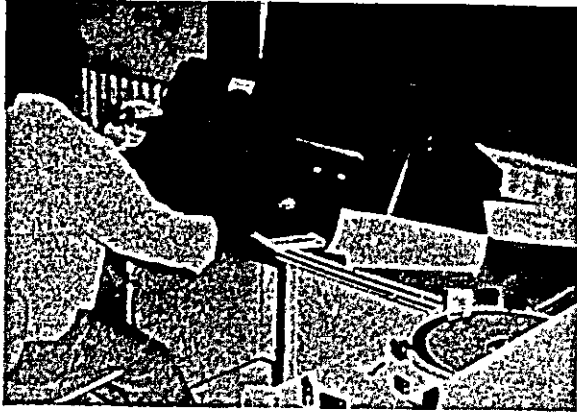


写真17 情報省本部ラジオスタジオ調音室

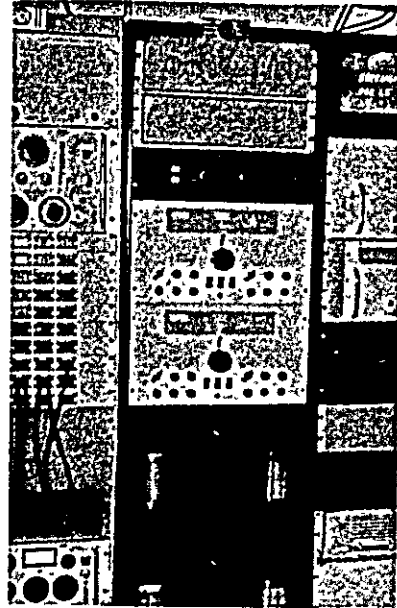


写真18 情報省本部ラジオスタジオ調音室 (Centre de modulation)

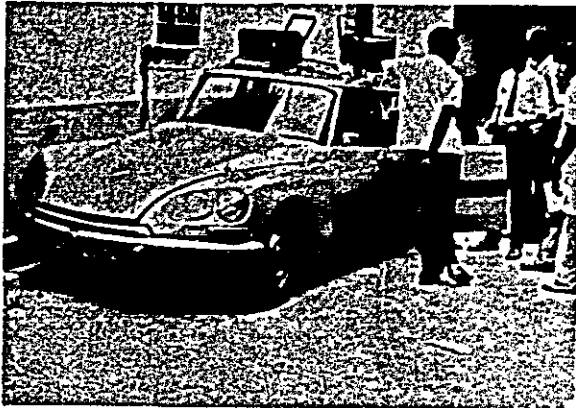


写真19 情報省本部VHFラジオカー

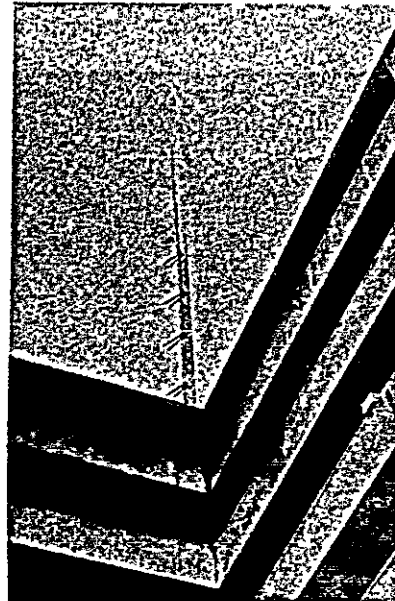


写真20 情報省本部FM送信アンテナ

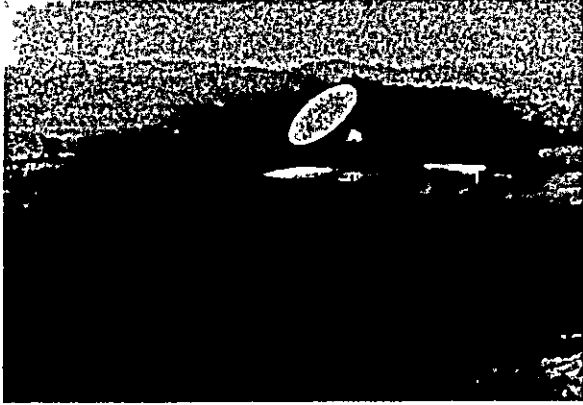


写真21 N'Sele地球局



写真22 Télé-Star

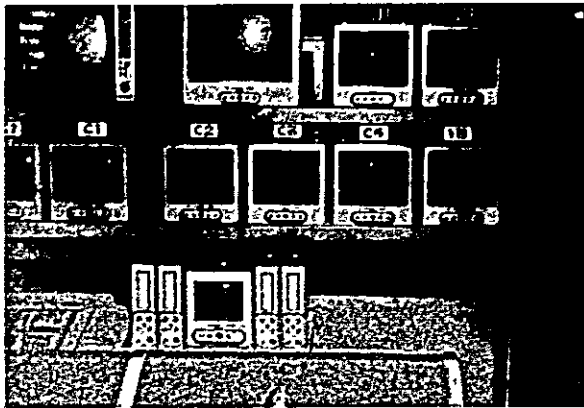


写真23 Télé-Star 副調整室

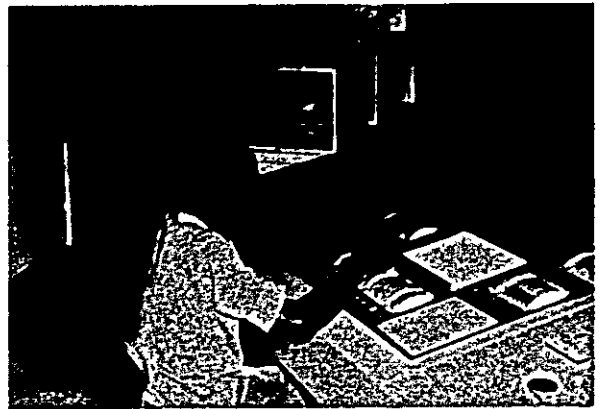


写真24 Télé-Star 副調整室照明調光卓

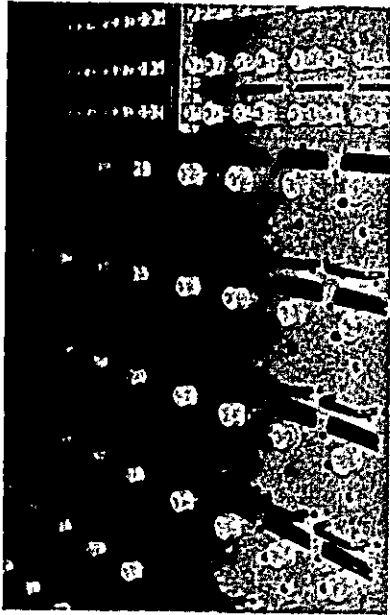


写真25 Télé-Star 副調整室照明調光ユニット

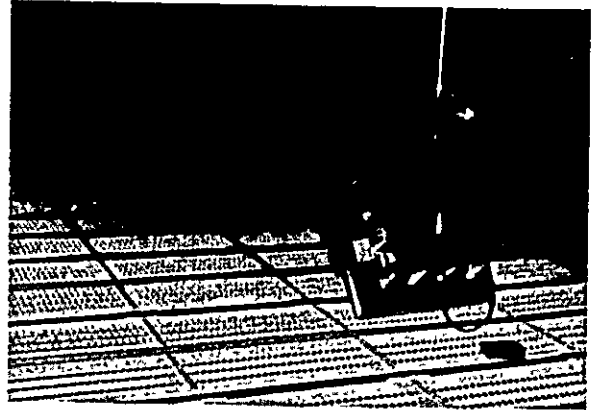


写真26 Télé-Star 大スタジオ天井ブリッジ

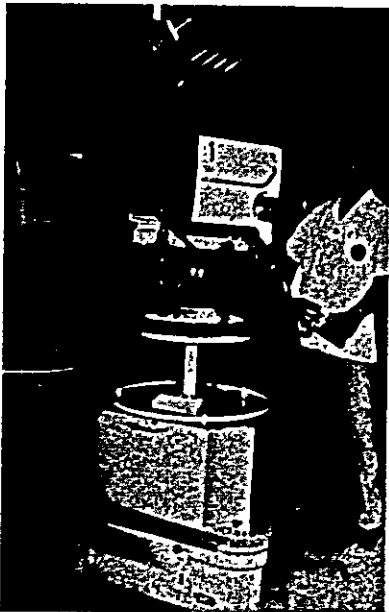


写真27 Télé-Star 大スタジオ

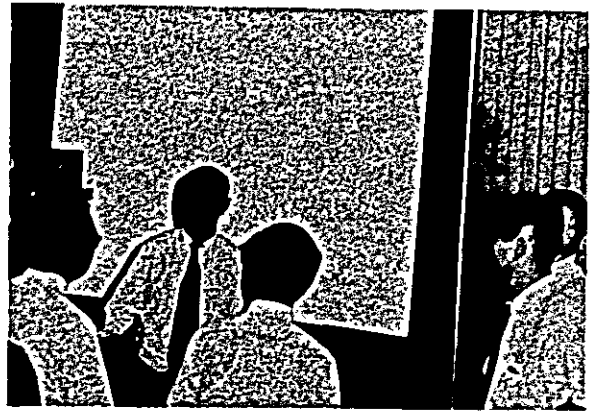


写真28 Tele-Star 小スタジオ映写スクリーン



写真 29 M. Dorgo M. Kandolo と調査団員
Monsieur Dongo et Monsieur Kandole avec les membres de la mission

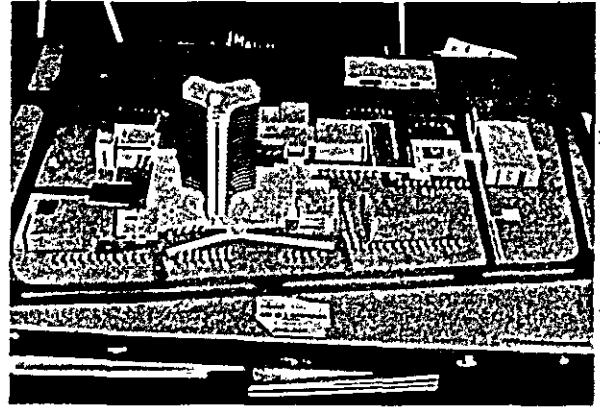


写真 30 放送センター建設フランス案模形(正面)

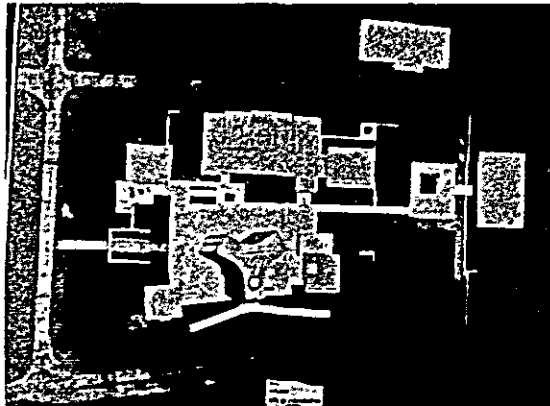


写真 31 放送センター建設フランス案模形(上面)



写真 32 Ndjili 50 kw 短波送信機

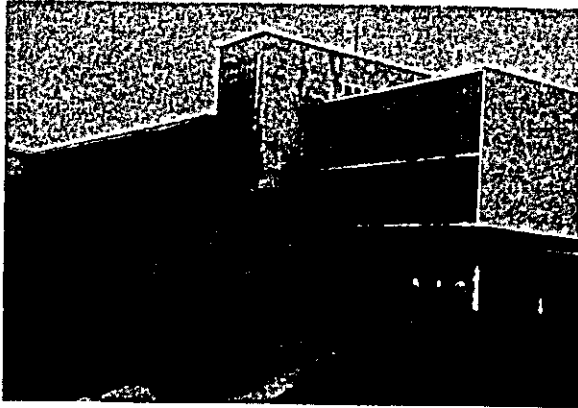


写真 33 Ndjili 送信所

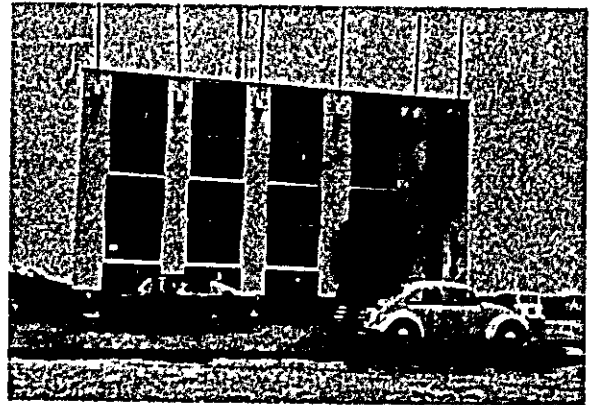


写真 34 Mutendi 600kw 送信所



写真 35 Mutendi 送信所空中観

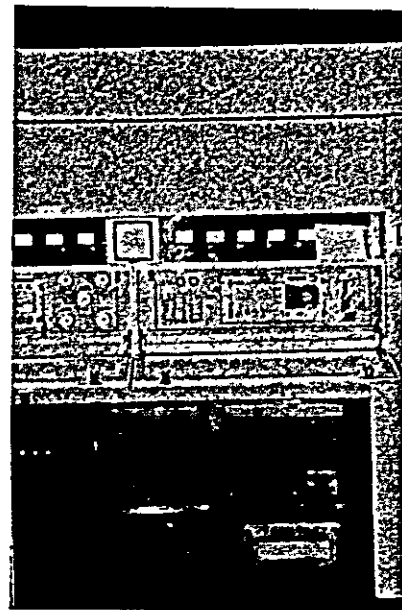


写真 36 Mutendi 600kw 送信機内部



写真37 Binza TV送信所

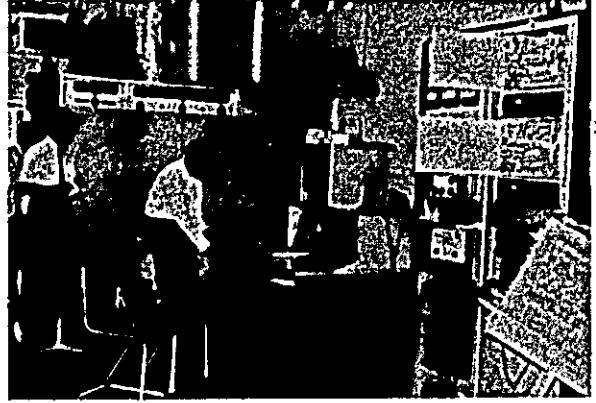


写真38 Binza 10kw送信機

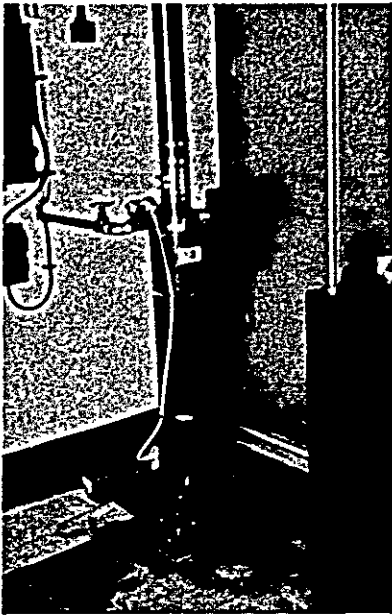


写真39 Binza 水冷製似空冷機



写真40 Kabinda 送信所内部

